

令和元年度第5回

地域連携推進機構運営会議（メール会議） 議事次第

日 時：令和元年5月22日（水）（メール送信日）～5月23日（木） 16：00（意見等期限日）

【議題】		
<審議事項>		資料番号
1	地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組の選定（案）について	審議 1
<報告事項>		
1	九州・大学発ベンチャー振興シーズ育成資金審査委員会の構成について	報告 1
2	地域連携推進機構が実施する公開講座の講座名について（IoT システムセキュリティ実践講座）	資料無し

○審議 1 資料

- ・(資料 1)地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組 申請一覧
- ・(資料 2)地域域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組 採択案
- ・(資料 3)地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組 申請書

○報告 1 資料

- ・九州・大学発ベンチャー振興シーズ育成資金審査委員会設置要綱

※参考資料

- ・ 地域連携推進機構運営会議 委員名簿（平成 31 年 4 月 1 日時点）（参考資料 1）

※今後の日程

- ・ 第 6 回 … 6 月 1 4 日（金） 1 4：0 0～1 6：0 0 於：本部管理棟 2 階 第二会議室
- ・ 第 7 回 … 7 月 1 2 日（金） 1 0：0 0～1 2：0 0 於：本部管理棟 2 階 第二会議室
- ・ 第 8 回 … 9 月 1 3 日（金） 1 4：0 0～1 6：0 0 於：本部管理棟 2 階 第二会議室

令和元年度 地域域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組 申請一覧

受付 番号	申請部局	取組名	科目名	科目番号	科目 区分	開講 学期	新規 継続	担当教員	申請額 (千円)	主な予算使途	地域課題と取組み内容	副専攻 該当	備考	過年度 支援実績
1	人文社会	若者がとりくむ防災デイキャンプ・プロジェクト	働くこととつながることの社会学Ⅰ	SOC221	専門	後	新規	野入 直美	100	講師謝金40 学生現場学習謝金(学生10名分)50	地域における防災面での課題理解のための体験	○	那覇市・沖縄市・西原町などと連携(学生10名)	
2	教育	近隣小学校の児童を集めた模擬学校「コックさん学校」運営による地域への貢献および学生の授業力・教育実践力の育成	総合演習Ⅲ 2組、 模擬授業、 教育実践ボランティア	教共103	専門	後	新規	萩野 敦子	100	オリジナルユニフォーム作成60	地域の児童の学ぶ意欲の向上のための「コックさん学校」運営	－		H30は「大学教育改善等経費(共通教育等改善経費)」にて実施
3	教育	琉球張り子づくりをとおした沖縄の伝統生活文化理解をうながす取組	沖縄生活文化論（松本由香担当分）	教共119	専門	後	新規	松本 由香	67	張子材料費52	学生の沖縄の伝統的生活文化等の理解のための作成体験	－		H30は「服飾文化論」にて支援100
4	教育	地域とともに学びをキュレーションできる人材を育成するための取組	子ども学フィールドワークⅠ	子215	専門	前	新規	高橋 美奈子	100	教材開発費（画用紙等消耗品）60 講師謝金30	教員と子ども等関係者の関わりあうことの重要性の体験	－		
5	教育	地域社会に学ぶ小学校教員養成カリキュラムの構築（学校教育専攻必修科目における体験実習を通じて）	体験「子どもの世界・学びの世界」	学共103	専門	後	継続	山口 剛史	100	講師謝金80	教員を目指す学生が子供の世界を体験的に学ぶ（5グループ）	－		H30支援100
6	教育	島地域の学校・授業づくりに学ぶ小学校教員養成（教職実践演習による離島実習を通じて）	教職実践演習（教諭A）6組	教職491	教職	後	継続	淡野 将太	100	引率旅費60 レンタカー代40	早期の離島へき地小規模学級での授業づくり体験	－	西表島での実習	H30支援100
7	教育	地域における子育て支援プログラムの作成と実施	乳幼児教育学	子212	専門	後	継続	岡花 祈一郎	100	講師謝金40	待機児童に対する子育てプログラム開発	－		H30支援100
8	教育	プログラミング教育教員不足の解決に貢献する人材育成に向けた取組	技術科教育法B	技371	専門	前	新規	岡本 牧子	100	プログラミングキャンプ費用70 講師謝金30	地域の教員へのプログラミング教育支援	－		
9	教育	沖縄県の支持的風土をつくる特別活動に貢献する人材の育成に向けた取り組み	特別活動論（教諭）	教職235	教職	後	新規	丹野 清彦	100	調査旅費50 講師謝金30	いじめ問題等における「当事者心理」「子ども理解」能力の向上	－	沖縄市との連携	H30は「いじめ問題への対応と課題」にて支援100
10	教職センター	離島・へき地と近接地域における幼児期から思春期までの「学校の不適応」の子どもへのトータルな地域協働支援	障がい者の教育実践と地域発達支援Ⅰ	教共117	専門	前	新規	浦崎 武	100	旅費91	「学校の不適応」の子どもへのトータル支援の実施	－	八重山または宮古での実習を予定	H29,30は「発達支援教育実践B」にて支援100
11	理	脆弱な島嶼生態系の保全と利用に関する体験学習－世界自然遺産候補地の西表島の現状把握と西表島が抱える課題の解決を目指す	生物学野外実習	海生200	専門	前	継続	横田 昌嗣	100	備船料58 レンタカー代42	西表島での野外調査	－	西表島での実習(学生4名)	H29,30支援250
12	理	失われつつある地域の伝統漁業・漁法および資源管理にかかわる実習取り組み	進化生態学実習Ⅷ	海生210	専門	前	新規	中村 崇	70	備船費70	伝統漁法「追い込み漁」の再評価のための体験	－	本部町での実習(学生30名)	
13	医	沖縄県の地域医療における各種療養型医療施設等の現状を理解し、問題を見出し解決し改善できる医師の育成に向けた取組	体験学習(国立療養所 愛楽園見学, 療養型入所施設見学実習)	なし	専門	後	継続	山本 秀幸	100	バス代100	低学年による国立療養所訪問見学	－		H29,30支援250
14	医	地域自治体の災害問題の解決に貢献する人材育成に向けた取組	救急・災害援助	保Ⅰ340	専門	前	継続	小林 潤	40	インク等消耗品40	自治体における防災の取組みを学生が学ぶ	－	北谷町との連携(学生37名)	
15	農	地域に根ざした健康・長寿に貢献する人材育成に向けた取組	健康長寿科学	資312	専門	前	継続	金子 哲	100	講師旅費100	沖縄の伝統食品の評価のための実食体験	－		H28,29,30支援200
16	農	やんばるの世界遺産登録に向けた森林ツーリズム案内人材育成	森林ツーリズム論	地379	専門	前	継続	陳 碧霞	100	事前調査旅費30 調査旅費48	適切なエコツーリズムに向けたプログラムの作成	－	国頭村安田での実習	H30は「正課外地域実践教育プロジェクト」で支援
17	農	亜熱帯地域作物の病害防除に携わる人材育成を目指す実験プログラムの改善（2）	植物病理学実験	環312	専門	前	継続	関根 健太郎	100	解析実験のための消耗品90	亜熱帯地域作物の病害駆除に関する人材育成	－		H30支援230
18	国際教育センター	地域住民・留学生・日本人学生の恒常的な「絆」作りプロジェクト	グローバル実践演習Ⅰ（前期） グローバル実践演習Ⅱ（後期）	琉102	共通	前後	新規	山元 淑乃	100	教材開発費60	相互理解促進を学ぶための地域住民を巻き込んだ合同演習の開発	○	西原町高校生等との連携	

令和元年度 地域域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組 採択案

申請部局	取組名	科目名	科目区分	開講学期	担当教員	申請額(千円)	審査結果
人文社会	若者がとりくむ防災デイキャンプ・プロジェクト	働くこととつながることの社会学Ⅰ	専門	後	野入 直美	100	採択
教育	プログラミング教育教員不足の解決に貢献する人材育成に向けた取組	技術科教育法B	専門	前	岡本 牧子	100	採択（プログラミング教育に関する「合同キャンプ」についてシラバスに反映させること）
理	脆弱な島嶼生態系の保全と利用に関する体験学習－世界自然遺産候補地の西表島の現状把握と西表島が抱える課題の解決を目指す	生物学野外実習	専門	前	横田 昌嗣	100	採択
理	失われつつある地域の伝統漁業・漁法および資源管理にかかわる実習取り組み	進化生態学実習Ⅷ	専門	前	中村 崇	70	採択
医	沖縄県の地域医療における各種療養型医療施設等の現状を理解し、問題を見出し解決し改善できる医師の育成に向けた取組	体験学習(国立療養所 愛楽園見学, 療養型入所施設見学実習)	専門	後	山本 秀幸	100	採択
医	地域自治体の災害問題の解決に貢献する人材育成に向けた取組	救急・災害援助	専門	前	小林 潤	40	採択（ただし、予算の使途について学生の地域志向の向上に資する部分に特化すること）
農	やんばるの世界遺産登録に向けた森林ツーリズム案内人材育成	森林ツーリズム論	専門	前	陳 碧霞	100	採択
国際教育センター	地域住民・留学生・日本人学生の恒常的な「絆」作りプロジェクト	グローバル実践演習Ⅰ（前期） グローバル実践演習Ⅱ（後期）	共通	前後	山元 淑乃	100	採択
教育	近隣小学校の児童を集めた模擬学校「コックさん学校」運営による地域への貢献および学生の授業力・教育実践力の育成	総合演習Ⅲ 2組、 模擬授業、 教育実践ボランティア	専門	後	萩野 敦子	100	不採択（本取組みによって、受講学生の地域志向を高めるという視点が採択授業と比べ相対的に弱い。）
教育	琉球張り子づくりをとおした沖縄の伝統生活文化理解をうながす取組	沖縄生活文化論（松本由香担当分）	専門	後	松本 由香	67	不採択（過年度までの取組み実績より、体験を通した学生の地域志向の向上への効果等を授業へ反映されたい。）
教育	地域とともに学びをキュレーションできる人材を育成するための取組	子ども学フィールドワークⅠ	専門	前	高橋 美奈子	100	不採択（本取組みによって、受講学生の地域志向を高めるという視点が採択授業と比べ相対的に弱い。また、予算の使途の大半が消耗品の購入となっているのは好ましくない。）
教育	地域社会に学ぶ小学校教員養成カリキュラムの構築（学校教育専攻必修科目における体験実習を通じて）	体験「子どもの世界・学びの世界」	専門	後	山口 剛史	100	不採択（本取組みによって、受講学生の地域志向を高めるという視点が採択授業と比べ相対的に弱い。）
教育	島地域の学校・授業づくりに学ぶ小学校教員養成（教職実践演習による離島実習を通じて）	教職実践演習（教諭A）6組	教職	後	淡野 将太	100	不採択（本取組みによって、受講学生の地域志向を高めるという視点が採択授業と比べ相対的に弱い。）
教育	地域における子育て支援プログラムの作成と実施	乳幼児教育学	専門	後	岡花 祈一郎	100	不採択（本取組みによって、受講学生の地域志向を高めるという視点が採択授業と比べ相対的に弱い。）
教育	沖縄県の支持的風土をつくる特別活動に貢献する人材の育成に向けた取り組み	特別活動論（教諭）	教職	後	丹野 清彦	100	不採択（本取組みによって、受講学生の地域志向を高めるという視点が採択授業と比べ相対的に弱い。）
教職センター	離島・へき地と近接地域における幼児期から思春期までの「学校の不適応」の子どもへのトータルな地域協働支援	障がい者の教育実践と地域発達支援Ⅰ	専門	前	浦崎 武	100	不採択（本取組みによって、受講学生の地域志向を高めるという視点が採択授業と比べ相対的に弱い。ほかの支援プロジェクトからの費用工面など実施に向けた工夫を期待したい。）
農	地域に根ざした健康・長寿に貢献する人材育成に向けた取組	健康長寿科学	専門	前	金子 哲	100	不採択（本取組みによって、受講学生の地域志向を高めるという視点が採択授業と比べ相対的に弱い。）
農	亜熱帯地域作物の病害防除に携わる人材育成を目指す実験プログラムの改善（2）	植物病理学実験	専門	前	関根 健太郎	100	不採択（予算の使途の大半が消耗品の購入となっているのは好ましくない。ほかの支援プロジェクトからの費用工面など実施に向けた工夫を期待したい。）

平成31(令和元)年度 地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組
申請書

部局等：人文社会学部

取組名	若者がとりくむ防災デイキャンプ・プロジェクト	配分額	100千円			
取組の区分	新規申請 (連携型)					
対象科目名	働くこととつながることの社会学Ⅰ					
科目の区分 (あてはまるものを選択又は記入)	組織	受講年次	教育種別	講義形態	必修選択	開講学期
	法文学部・人文社会学部	2～4年次	専門教育	講義 実習	自由選択	後学期
取組の実施概要・特色	授業において設定している地域課題と、その課題を授業でどのように扱うか記述して下さい。 ① 本取り組みでは、「防災におけるソフト面の備えの弱さ」という地域課題を乗り越えるために、講義とグループワーク、現場学習、SNS発信を組み合わせたアクティブ・ラーニングを行う。 沖縄における防災のとりくみは、避難所の整備や非常用物資の備蓄などのハード面が中心であり、ひとりひとりの防災力の向上や地域コミュニティの醸成というソフト面が立ち遅れている。本取り組みでは、自然災害などに主体的に対応し、地域の人びとと助け合って生き抜くことのできる力を育み、地域防災力の基盤となる地域コミュニティを醸成する避難生活体験型の防災デイキャンプを、大学生が地域の子どもと一緒に企画・実施する。それによって、「防災におけるソフト面の備えの弱さ」という地域課題を乗り越えていく。 防災キャンプは、宮城県などが防災×青少年育成のプロジェクトとして推進しているが、沖縄県では「沖縄発キャンプベンチャーCampo(きんぽ)」による民間主導のとりくみがなされていて、地域全体のとりくみにはなっていない。また、若者や子どもが主体に位置づいた防災キャンプはまだ沖縄では行われていない。 ② 10月に「働くこととつながることの社会学Ⅰ」の授業科目を開設し、20人の学生を対象とする講義、ゲスト講義と現場学習のオリエンテーションを行う。受講生は複数の現場学習に分かれて学ぶ。防災デイキャンプ・プロジェクトは10名の学生で実施する。 ③ 11～1月に、防災デイキャンプに実績のある「沖縄発キャンプベンチャーCampo(きんぽ)」、および県内NPOとの連携により、那覇市、沖縄市、西原町などで、大学生が地域の子どもと一緒に防災にとりくむ防災デイキャンプを実施する。西原町での防災キャンプには、防災デイキャンプ・プロジェクト以外の現場学習を選んだ「働くこととつながることの社会学Ⅰ」受講生も参加し、各自の防災意識と防災能力を高める。 ④ 2月に口頭試問を発表形式で行い、受講生全員が学びの成果を共有する。					

	また、発表をデジタル・ストーリーテリングとして SNS で公開する。デジタル・ストーリーテリングとは、実際に起こったことや自分の考えなどを、ひとつのトピックを立てて数分間の動画にするものである。本人が画面に映らないように、描いた絵や撮影した写真を使うこともできるため、学生の肖像権やプライバシーに配慮した形での発信が可能となる。学生は、関係者へのフィードバックと、自らの気づきや学びの社会への発信を行い、地域におけるソフト面の防災力を向上させる。			
取組の効果 (地域課題解決・教育効果)	新たに経費を使用して実施する内容と教育的効果について、新規性・必要性がわかるように記述して下さい。 ① 本取り組みでは、グループワークと現場学習、デジタル・ストーリーテリングの SNS 発信というアクティブ・ラーニングを通じて、学生が自分のこれまでの防災意識を見つめ直し、自己の防災能力を高め、地域にとりくみを広げる地域防災推進のアクターとなる。 ② 学生が避難生活体験型の防災デイキャンプを、地域の子どもたちと一緒に企画・実施することによって、地域防災力を、地域コミュニティの醸造というソフト面から高めることができる。			
実施担当者 (代表者に※を付すこと)	氏 名	所属職名 (役職名)	担 当 分 担	
	野入直美	琉球大学人文社会学部 (准教授)	プロジェクト統括	
経 費	事 項	予 定 額 (千円)	積算内訳	備 考
	講師謝礼	40 50	講演謝金 単価10×2名×2時間 現場学習謝金 (学生一人当たり5×10名分)	
	交通費	10	現場学習への同行に要する県内交通費 (那覇市・沖縄市への旅費0.5×6回=3+駐車場代0.25×28時間=7)	
スケジュール	10月：講義、グループワーク、ゲスト講義と現場学習オリエンテーション 11～1月：現場学習 (防災デイキャンプの企画と実施) 2月：口頭試問。デジタル・ストーリーテリングのSNS発信によって、関係者へのフィードバックと地域防災力を高める社会的発信を行う。			

※全体で2枚以内にまとめること

科目番号			
SOC221			
開講年度	開講学期	曜日時限	開講学部等
2019	後学期	火2	人文社会学部人間社会学科
講義コード	科目名[英文名]		単位数
h00255002	働くこととつながることの社会学Ⅰ		2
担当教員[ローマ字表記]			
野入 直美			

授業の形態

講義、実習

アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ

授業内容与方法

現代社会において、また自分自身にとって、「働くこと」「つながること」は何を意味するのかを、講義、現場学習、プレゼンテーションによって学ぶ。

受講生は、以下の4つの現場からひとつを選び、11月から1月中旬にかけて、トータルで1時間×7、8回の現場学習を行う。また、大学での講義とグループワークに参加し、最終回にプレゼンテーションを行う。それによって、「働くこと」「つながること」を相対化する力、問いを立てて現場に入り、現場から学びつつ現場に貢献する力、そして、自身のこれからの「働くこと」「つながること」を創っていく力を育む。

【現場その1：子どもの居場所kukulu（那覇）】：子ども、貧困、居場所、スポーツをキーワードに、自身を豊かにする「参画」や「支援」のフレームをつくる。

コーディネーター：糸数温子さん

【現場その2：まちづくり】：那覇またはコザで、空間をめぐる議論と意思決定を、楽しみながら市民の側へと引き寄せる。

キーパーソン：石垣綾音さん

【現場その3：カフェシアター】：コザのセレクト系ミニシアター、シアタードーナツ・オキナワで、映像作品と人を結びつけ、出会いと気づきを育むコミュニティをつくる。

キーパーソン：宮島真一さん

【現場その4：地域円卓会議】：地域の「困りごと」を社会課題として共有・発信する沖縄初の革新的なしくみ、73回を数える地域円卓会議のつくりかたを学ぶ。

キーパーソン：平良斗星さん

URGCC学習教育目標

社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、問題解決力

達成目標

- （1）那覇またはコザを中心に、子どもの貧困、まちづくり、カフェシアター、地域円卓会議にかかわる現場学習を行うー地域・国際性
- （2）グループワークによってほかの受講生と体験をシェアしあい、自分の体験を相対化することができるー社会性
- （3）現場に根ざして「働くこと」と「つながること」の今日的な意味と展開可能性を考察するー問題解決力
- （4）プレゼンテーションを行い、現代社会における「働くこと」と「つながること」について得られた知見を発信するーコミュニケーション・スキル

評価基準と評価方法

講義におけるグループワークへの参加とコミットメント30点、現場学習における参加とコミットメント30点、プレゼンテーション40点で評価する。

履修条件

運転しない学生も参加できる。

必ず教育後援会に参加し、そのパッケージに入っている学生保険に加入しておくこと。

■ 授業計画

1. 10月1日：オリエンテーション
これまでと現在の自分を成り立たせている社会経験を振り返り、現場学習への水路づけを行う。
2. 10月8日：ゲスト講義その1・その2
3. 10月22日：ゲスト講義その3・その4、現場と学生のマッチング
- 4～6. 10月29日、11月5日、12日—大学での講義なし。現場学習
7. 11月19日：中締め授業：現場学習の振り返りと課題の確認、関連講義
- 8～10. 11月26日、12月3日、12月10日—大学での講義なし。現場学習
11. 12月17日：中締め授業：現場学習の振り返りと課題の確認、関連講義またはゲスト講義
- 12、13. 12月24日、1月7日—大学での講義なし。現場学習
14. 1月14日：中締め授業：現場学習の振り返りとプレゼンテーションのテーマ確認
- 15、16. 1月21日、28日—学生によるプレゼンテーション

■ 事前学習

現場に入る前に問いを立てる。

■ 事後学習

講義、現場学習のたびに、ウェブクラスにフィードバックを記入する。
プレゼンテーションの準備を行う。

■ 教科書にかかわる情報

■ 教科書全体備考

■ 参考書にかかわる情報

■ 参考書全体備考

■ 使用言語

日本語

■ メッセージ

アクティブ・ラーニングそのものを自己目的化せず、なんのために現場に入るのかを常に問うてください。

次回開講予定：2021年前期、「働くこととつながることの社会学Ⅱ」

平成 3 1 (令和元) 年度 地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組
申請書

部局等： 教育学部

取組名	近隣小学校の児童を集めた模擬学校「コックさん学校」運営による地域への貢献 および学生の授業力・教育実践力の育成	配分額	100千円			
取組の区分	新規申請					
対象科目名	総合演習Ⅲ 2組、模擬授業、教育実践ボランティア (「総合演習Ⅲ」への登録を中心とするが、過去に履修済の学生は「模擬授業」または「教育実践ボランティア」で登録できるようにする)					
科目の区分 (あてはまるものを選択又は記入)	組織	受講年次	教育種別	講義形態	必修選択	開講学期
	学部	1～3年次	専門教育	実習	自由選択	後学期
取組の実施概要・特色	①本取組は、教育学部で平成 19 年度から 12 年間実施し続けている模擬学校「コックさん学校」の活動を土台としている。毎年 11～12 月頃の約 8 週間にわたり、土曜午前に近隣小学校の児童 40 名ほどを対象に、学生たちが教員として国語と算数の授業を行うものである。この 12 年間、「コックさん学校」の活動に参加した学生からは多くの教員採用試験現役合格者を出してきた。 ②本取組では、学生たちが児童の学ぶ意欲（今次学習指導要領で重視されている「学びに向かう力」に相当する）を高めることを目指して、遊びの要素（生活に結びつく体験的な要素）を取り入れた創意工夫ある授業を展開する。この活動を通して地域への貢献を果たすとともに、授業力および学校運営という協働体験による教育実践力を身に付けた人材（主として学校教員）の育成を目指す。 ③授業としては後学期開設だが、前学期中に「コックさん学校」の参加者を募り（18 名程度を予定）、校務分掌の決定やカリキュラムづくりを進める。9 月に宜野湾市立長田小学校と中城村立中城南小学校から児童を募集する。後学期に入り、10 月は開講に向けた諸準備を進め、11 月から 12 月にかけて全 8 回の学校運営を行う。1 月は活動全体を全員で振り返る。 ④成果と課題の確認については、上述のリフレクションのほか、2 月提出の各自によるレポートをもって行い、大学教員は学生の授業力と教育実践力を育成する方法の改善に反映させる。 ⑤本取組では、学生が児童に提供する授業が児童にとってのアクティブ・ラーニングであるとともに、その授業を学校運営とともに経験する活動もまた学生にとってのアクティブ・ラーニングとなっている。 ⑥なお、昨年度の「コックさん学校」は「平成 30 年度大学教育改善等経費（共通教育等改善経費）」の助成を頂き、教育学部学生 20 名・長田小学校児童 25 名・中城南小学校児童 9 名が参加して実施した。活動内容の記録として「コックさん学校入学案内」、「コックさん学校通信」全 9 号、保護者アンケート、学生による総括のレポートといった文書資料のほか、学生が自身の授業等を客観的に振り返るためにビデオ撮影した映像資料も残っている。					

取組の効果 (地域課題解決・教育効果)	①学生は、教科書を離れたオリジナルの教具を用いて、遊びの要素（生活に結びつく体験的な要素）を取り入れた国語と算数の授業を実施することで、授業力を向上させることができる。またこの授業は、地域の児童の学ぶ意欲（学びに向かう力）を高める効果も期待できる。 ②単に 45 分の授業を行うだけでなく、「コックさん学校」という学校を運営する（具体的には児童名簿の作成、朝の会・帰りの会・お楽しみ会の実施、学校通信による保護者との交流などを行う）ことで、学生の教育実践力を向上させることができる。 ③「コックさん学校」終了時に児童の保護者からアンケートを取り、児童の学ぶ意欲を高めるうえでの効果と課題について検証することで、学生たちの教職に向けてのモチベーションの向上が期待できる。			
実施担当者 (代表者に※を付すこと)	氏 名 ※萩野敦子 山城康一	所属職名 (役職名) 教育学部・教授 教育学部・准教授	担 当 分 担 学校運営指導・国語授業指導 学校運営指導・算数授業指導	
経費	事項	予定額 (千円)	積算内訳	備 考
	消耗品	60	・オリジナルユニフォーム 製版代 4,000円 ポロシャツ代 56,000円 (1着2,800円×20人分)	→「コックさん学校」教員であることを児童と保護者にわかるようにする(事故防止のため)
	消耗品	8	・フラットファイル (10冊440円×6パック×3色)	→国語・算数・学校通信用に児童と学生・大学教員が3冊ずつ所持する
	消耗品	6	・画用紙、色画用紙 (100枚入1,500円×4色)	
	消耗品	6	・リングファイル (1冊300円×20人分)	→学生・大学教員が学校運営用の資料を保管する
	消耗品	20	・USB (4GB1,000円×20人分)	→学生・大学教員が諸データを保管する
スケジュール	5月 「コックさん学校」の参加者を募集とメンバーの確定 6～8月 「コックさん学校」の校務分掌の決定、カリキュラムの作成、 9月 「コックさん学校」参加児童の募集と決定 10月 授業科目としての開講、「コックさん学校」開校の準備 11～12月 「コックさん学校」の実施(全8回) 1月 「コックさん学校」の活動全般についてのリフレクション 2月 学生によるレポートの作成、大学教員による活動報告書の作成 3月 年度末の報告会等への参加			

※全体で2枚以内にまとめること

科目番号			
教共103			
開講年度	開講学期	曜日時限	開講学部等
2019	後学期	集中	教育学部
講義コード	科目名[英文名]		単位数
305008022	総合演習Ⅲ 2組		2
担当教員[ローマ字表記]			
萩野 敦子, 山城 康一			

授業の形態

実習

アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ、学生が文献や資料を調べる

授業内容与方法

《ブラクティススクール「コックさん学校」を運営しよう》

「コック」は「国語」・「さん」は「算数」、つまり、小学生を対象に国語と算数の授業を展開するのが「コックさん学校」です。平成19年度に近隣3小学校の4年生から40名の子どもたちを集めて立ち上げて以来、子どもと接しながら教育実践力を高めたいという意欲のある学生たちによって毎年立ち上げられ、今年度は第13代となります。

初代から変わらぬコンセプト「遊びの要素を取り入れつつ楽しく学ぶ」を目指して今年もオリジナリティあふれる学校を運営しましょう。学校長以下の校務分掌、児童の集め方、カリキュラムづくり、それぞれの授業の展開のしかた、児童を楽しませるための仕掛け、すべてが皆さんの手によって担われることになりますが、それらはすべて、やがて教員としてはばたいてゆく皆さんには必要となるスキルです。是非このブラクティススクールに参加することにより、教職への意欲を高め、自らの課題を見つけ、将来につなげてください。

なお、本授業においては、山城の指導のもと積極的に「ウェブクラス」を活用していきます。

URGCC学習教育目標

自律性、社会性、コミュニケーション・スキル、問題解決力

達成目標

- (1) 教職の意義を理解し、教職への使命感を高める。【学校教育に関する理解、教育実践力】
- (2) コミュニケーション能力を含めた社会性を高める。【子ども理解、学校教育に関する理解】
- (3) 児童理解および学級全体の把握能力を高める。【子ども理解、学校教育に関する理解】
- (4) 授業の指導計画および実践指導の能力を高める。【教科内容についての理解、教育実践力】

評価基準と評価方法

(1) 評価の8割については、上記「達成目標」に記した4つの観点から総合的に判断します。なお、出席は大前提であるので、特に評価に加味はしません。(逆にいえば、理由のない欠席を重ねた場合には、当然マイナス評価となります。)

(2) 評価の2割については、「コックさん学校」終了後に提出していただくレポートを判断材料とします。ただしこのレポートは、成績を付けることよりも「コックさん学校」の記録を残すことを主たる目的とするものとお考えください。

履修条件

すでに前学期から活動に向けての下準備に参加していること。

授業計画

- 第1回 コックさん学校①の実施
- 第2回 コックさん学校①の反省・次回の準備
- 第3回 コックさん学校②の実施
- 第4回 コックさん学校②の反省・次回の準備

- 第5回 コックさん学校③の実施
- 第6回 コックさん学校③の反省・次回の準備
- 第7回 コックさん学校④の実施
- 第8回 コックさん学校④の反省・次回の準備
- 第9回 コックさん学校⑤の実施
- 第10回 コックさん学校⑤の反省・次回の準備
- 第11回 コックさん学校⑥の実施
- 第12回 コックさん学校⑥の反省・次回の準備
- 第13回 コックさん学校⑦の実施
- 第14回 コックさん学校⑦の反省・次回の準備
- 第15回 コックさん学校⑧の実施
- 第16回 コックさん学校⑧の反省と全体の総括

■ ■ 事前学習

授業担当者を中心に事前（授業前）に学習指導案の検討会を行う

■ ■ 事後学習

授業担当者を中心に事後（授業後）に授業の振り返りを行う

■ ■ 教科書にかかわる情報

■ ■ 教科書全体備考

■ ■ 参考書にかかわる情報

■ ■ 参考書全体備考

■ ■ 使用言語

日本語

■ ■ メッセージ

担当教員である山城（数学教育専修所属・514室）・萩野（国語教育専修所属・527室）は、基本的にオブザーバーです。「コックさん学校」を運営するのは、あくまでも自分たちなのだという自覚を持ってください。とはいえ、困ったことはいつでも相談に乗ります。わたしたちも「コックさん学校」の仲間として、楽しみながら見守りたいと思います。

■ ■ オフィスアワー

10月以降にコックさん学校参加者全員で決定する

■ ■ メールアドレス

yamasiro@edu.u-ryukyu.ac.jp（山城）
hagino@edu.u-ryukyu.ac.jp（萩野）

■ ■ URL

科目番号			
教t312			
開講年度	開講学期	曜日時限	開講学部等
2019	後学期	集中	教育学部
講義コード	科目名[英文名]	単位数	
304889022	模擬授業 2組	2	
担当教員[ローマ字表記]			
萩野 敦子, 山城 康一			

授業の形態

実習

アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ、学生が文献や資料を調べる

授業内容と方法

《ブラクティススクール「コックさん学校」を運営しよう》

「コック」は「国語」・「さん」は「算数」、つまり、小学生を対象に国語と算数の授業を展開するのが「コックさん学校」です。平成19年度に近隣3小学校の4年生から40名の子どもたちを集めて立ち上げて以来、子どもと接しながら教育実践力を高めたいという意欲のある学生たちによって毎年立ち上げられ、今年度は第13代となります。

初代から変わらぬコンセプト「遊びの要素を取り入れつつ楽しく学ぶ」を目指して今年もオリジナリティあふれる学校を運営しましょう。学校長以下の校務分掌、児童の集め方、カリキュラムづくり、それぞれの授業の展開のしかた、児童を楽しませるための仕掛け、すべてが皆さんの手によって担われることになりますが、それらはすべて、やがて教員としてはばたいてゆく皆さんには必要となるスキルです。是非このブラクティススクールに参加することにより、教職への意欲を高め、自らの課題を見つけ、将来につなげてください。

なお、本授業においては、山城の指導のもと積極的に「ウェブクラス」を活用していきます。

URGCC学習教育目標

自律性、社会性、コミュニケーション・スキル、問題解決力

達成目標

- (1) 教職の意義を理解し、教職への使命感を高める。【学校教育に関する理解、教育実践力】
- (2) コミュニケーション能力を含めた社会性を高める。【子ども理解、学校教育に関する理解】
- (3) 児童理解および学級全体の把握能力を高める。【子ども理解、学校教育に関する理解】
- (4) 授業の指導計画および実践指導の能力を高める。【教科内容についての理解、教育実践力】

評価基準と評価方法

(1) 評価の8割については、上記「達成目標」に記した4つの観点から総合的に判断します。なお、出席は大前提であるので、特に評価に加味はしません。(逆にいえば、理由のない欠席を重ねた場合には、当然マイナス評価となります。)

(2) 評価の2割については、「コックさん学校」終了後に提出していただくレポートを判断材料とします。ただしこのレポートは、成績を付けることよりも「コックさん学校」の記録を残すことを主たる目的とするものとお考えください。

履修条件

すでに前学期から活動に向けての下準備に参加していること。

授業計画

- 第1回 コックさん学校①の実施
- 第2回 コックさん学校①の反省・次回の準備
- 第3回 コックさん学校②の実施
- 第4回 コックさん学校②の反省・次回の準備

- 第5回 コックさん学校③の実施
- 第6回 コックさん学校③の反省・次回の準備
- 第7回 コックさん学校④の実施
- 第8回 コックさん学校④の反省・次回の準備
- 第9回 コックさん学校⑤の実施
- 第10回 コックさん学校⑤の反省・次回の準備
- 第11回 コックさん学校⑥の実施
- 第12回 コックさん学校⑥の反省・次回の準備
- 第13回 コックさん学校⑦の実施
- 第14回 コックさん学校⑦の反省・次回の準備
- 第15回 コックさん学校⑧の実施
- 第16回 コックさん学校⑧の反省と全体の総括

■ ■ 事前学習

授業担当者を中心に事前（授業前）に学習指導案の検討会を行う

■ ■ 事後学習

授業担当者を中心に事後（授業後）に授業の振り返りを行う

■ ■ 教科書にかかわる情報

■ ■ 教科書全体備考

■ ■ 参考書にかかわる情報

■ ■ 参考書全体備考

■ ■ 使用言語

日本語

■ ■ メッセージ

担当教員である山城（数学教育専修所属・514室）・萩野（国語教育専修所属・527室）は、基本的にオブザーバーです。「コックさん学校」を運営するのは、あくまでも自分たちなのだという自覚を持ってください。とはいえ、困ったことはいつでも相談に乗ります。わたしたちも「コックさん学校」の仲間として、楽しみながら見守りたいと思います。

■ ■ オフィスアワー

10月以降にコックさん学校参加者全員で決定する

■ ■ メールアドレス

yamasiro@edu.u-ryukyu.ac.jp（山城）
hagino@edu.u-ryukyu.ac.jp（萩野）

■ ■ URL

科目番号			
教7314			
開講年度	開講学期	曜日時限	開講学部等
2019	後学期	集中	教育学部
講義コード	科目名[英文名]		単位数
306051022	教育実践ボランティアⅢ 3組		2
担当教員[ローマ字表記]			
萩野 敦子, 山城 康一			

授業の形態

実習

アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ、学生が文献や資料を調べる

授業内容と方法

《ブラクティススクール「コックさん学校」を運営しよう》

「コック」は「国語」・「さん」は「算数」、つまり、小学生を対象に国語と算数の授業を展開するのが「コックさん学校」です。平成19年度に近隣3小学校の4年生から40名の子どもたちを集めて立ち上げて以来、子どもと接しながら教育実践力を高めたいという意欲のある学生たちによって毎年立ち上げられ、今年度は第13代となります。

初代から変わらぬコンセプト「遊びの要素を取り入れつつ楽しく学ぶ」を目指して今年もオリジナリティあふれる学校を運営しましょう。学長以下、校務分掌、児童の集め方、カリキュラムづくり、それぞれの授業の展開のしかた、児童を楽しませるための仕掛け、すべてが皆さんの手によって担われることになりますが、それらはすべて、やがて教員としてはばたいてゆく皆さんには必要となるスキルです。是非このブラクティススクールに参加することにより、教職への意欲を高め、自らの課題を見つけ、将来につなげてください。

なお、本授業においては、山城の指導のもと積極的に「ウェブクラス」を活用していきます。

URGCC学習教育目標

自律性、社会性、コミュニケーション・スキル、問題解決力

達成目標

- (1) 教職の意義を理解し、教職への使命感を高める。【学校教育に関する理解、教育実践力】
- (2) コミュニケーション能力を含めた社会性を高める。【子ども理解、学校教育に関する理解】
- (3) 児童理解および学級全体の把握能力を高める。【子ども理解、学校教育に関する理解】
- (4) 授業の指導計画および実践指導の能力を高める。【教科内容についての理解、教育実践力】

評価基準と評価方法

(1) 評価の8割については、上記「達成目標」に記した4つの観点から総合的に判断します。なお、出席は大前提であるので、特に評価に加味はしません。(逆にいえば、理由のない欠席を重ねた場合には、当然マイナス評価となります。)

(2) 評価の2割については、「コックさん学校」終了後に提出していただくレポートを判断材料とします。ただしこのレポートは、成績を付けることよりも「コックさん学校」の記録を残すことを主たる目的とするものとお考えください。

履修条件

すでに前学期から活動に向けての下準備に参加していること。

授業計画

- 第1回 コックさん学校①の実施
- 第2回 コックさん学校①の反省・次回の準備
- 第3回 コックさん学校②の実施
- 第4回 コックさん学校②の反省・次回の準備

- 第5回 コックさん学校③の実施
- 第6回 コックさん学校③の反省・次回の準備
- 第7回 コックさん学校④の実施
- 第8回 コックさん学校④の反省・次回の準備
- 第9回 コックさん学校⑤の実施
- 第10回 コックさん学校⑤の反省・次回の準備
- 第11回 コックさん学校⑥の実施
- 第12回 コックさん学校⑥の反省・次回の準備
- 第13回 コックさん学校⑦の実施
- 第14回 コックさん学校⑦の反省・次回の準備
- 第15回 コックさん学校⑧の実施
- 第16回 コックさん学校⑧の反省と全体の総括

■ ■ 事前学習

授業担当者を中心に事前（授業前）に学習指導案の検討会を行う

■ ■ 事後学習

授業担当者を中心に事後（授業後）に授業の振り返りを行う

■ ■ 教科書にかかわる情報

■ ■ 教科書全体備考

■ ■ 参考書にかかわる情報

■ ■ 参考書全体備考

■ ■ 使用言語

日本語

■ ■ メッセージ

担当教員である山城（数学教育専修所属・514室）・萩野（国語教育専修所属・527室）は、基本的にオブザーバーです。「コックさん学校」を運営するのは、あくまでも自分たちなのだという自覚を持ってください。とはいえ、困ったことはいつでも相談に乗ります。わたしたちも「コックさん学校」の仲間として、楽しみながら見守りたいと思います。

■ ■ オフィスアワー

10月以降にコックさん学校参加者全員で決定する

■ ■ メールアドレス

yamasiro@edu.u-ryukyu.ac.jp（山城）
hagino@edu.u-ryukyu.ac.jp（萩野）

■ ■ URL

平成31（令和元）年度 地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組
申請書

部局等：教育学部

取組名	琉球張り子づくりをととした沖縄の伝統生活文化理解をうながす取組			配分額	67千円			
取組の区分	新規申請 / 継続申請							
対象科目名	沖縄生活文化論（松本由香担当分）							
科目の区分 （あてはまるものを選択又は記入）	組織	受講年次	教育種別	講義形態	必修選択	開講学期		
	学部	1～4年次	教育学部共通科目	講義・実習	選択	後学期		
取組の実施概要・特色	① 琉球張り子は、沖縄で古くから農漁業のあいまにつくられ、旧暦五月四日から四日間、沖縄各地のハーリーの近くの市（ユッカヌヒー）でハーリーの見物客、子ども向けに売られた庶民の玩具である。 ② 本取組では、消失されつつある地域の伝統的生活文化を再認識するために、古くから沖縄各地にあった生活文化の一つで、子どものおもちゃであった琉球張り子づくりを、履修学生が体験をすることによって、地元の伝統的生活文化を理解し、保存しようとする意識をもつ教師となる人材の育成、また学校教育で伝統をふまえた創作の楽しさを子どもたちに伝えられる教師となる人材の育成を目指す。 ③ 12月～1月にかけて、沖縄生活文化論の松本が担当する授業のなかで、16名の学生を対象に、琉球張り子についての講義および張り子づくりの実習をおこなう。まず琉球張り子工芸作家の赤嶺康浩氏（工房ニャン山代表）を講師に迎えて、琉球張り子の歴史・つくり方を学び、その後、松本が、琉球王朝時代の伝統衣装および庶民の衣服について学生に講義し、琉球張り子デザインおよび張り子づくりの実習指導をおこなう。（松本は、赤嶺氏に琉球張り子づくりを師事した経験があり、自らもオリジナルに創作している） ④ 2月には、学生が作成した琉球張り子の作品展を、教育学部棟333教室でおこない、教育実践学専修および生活科学教育専修の学生を対象に、作品を披露する。 ⑤ 本取組は、昨年度まで、本授業でおこなってきた紅型実習や芋麻・芭蕉による糸づくりから、さらに多方面へと展開することを目指し、本年度、沖縄の郷土玩具づくりから、沖縄の伝統的生活文化、昔の暮らしを考え体験して学ぶという取組である。学校教育における家庭科領域、保育分野での子どものおもちゃづくりの題材的意図も含んでいる。							

取組の効果 (地域課題解決・教育効果)	① 地元の暮らしのなかで忘れ去られ、学校教育においても取り上げられることのなかった琉球張り子を取り上げ、創作体験を実施することで、地元の伝統文化を理解し、伝統的生活文化を理解し保存しようとするはばひろい教養をもつ教師となる人材の育成ができる。 ② 琉球張り子づくりでは、地元の衣生活の歴史を調べ、それをもとに張り子の人形の衣装デザインを考え、粘土での型づくり、和紙貼り、胡粉塗り、彩色という一連の作業をとおして、創作する楽しさが体験できる。この体験的取組によって、履修学生が、将来、学校教育で伝統をふまえながら創作することの楽しさを子どもたちに伝えられる教師になるという人材の育成ができる。 ③ 履修学生がみずから制作した琉球張り子の作品を自宅に持ち帰ることで、家族とのコミュニケーションがはかられ、ひいては、ひろく沖縄の人びとに、地域の伝統的生活文化を再認識してもらうきっかけとなることが予想される。			
実施担当者 (代表者に※を付すこと)	氏 名	所属職名 (役職名)	担 当 分 担	
	松本 由香	教育学部・教授	授業・取組の実施	
経費	事項	予定額 (千円)	積算内訳	備 考
	消耗品	52	琉球張り子の材料： 書道用半紙：5,300円 型づくり用粘土：3,000円 膠液：1,500円 胡粉：10,000円 アクリル絵具：15,000円 面相筆：17,000円 計：51,800円	履修者 16 名とし、試作 4 体を入れて 20 体として計算
	謝金	15	謝金（赤嶺氏の教育学部への招聘）： 2回（歴史づくり方講義・学生作品講評）： 7,500円×2回＝15,000円	
	総計	67	66,800円	
スケジュール	12月：琉球張り子の歴史・つくり方講義（赤嶺氏）および張り子づくり指導（松本） 1月：琉球張り子づくり（張り子人形の衣装デザイン考案、粘土での型づくり、和紙貼り、胡粉塗り、彩色（松本）、および完成・作品の講評（赤嶺氏） 2月：評価、琉球張り子作品展の実施（教育学部棟333教室）			

※全体で2枚以内にまとめること

科目番号			
教共119			
開講年度	開講学期	曜日時限	開講学部等
2019	後学期	火2	教育学部
講義コード	科目名[英文名]		単位数
306500002	沖縄生活文化論		2
担当教員[ローマ字表記]			
松本 由香, 田原 美和			

授業の形態

講義、演習又は実験

アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ、学生が文献や資料を調べる

授業内容と方法

- ・沖縄の食生活、衣生活の文化を中心にその現状を踏まえながら、演習、ディスカッション等を通して生活課題について考察し、その改善の方法を考える。
- ・沖縄の食生活について、その変遷、またこれまで先人が育んできた食文化について概説する。また、現在の食生活の現状を考察させ、その課題解決に向けて演習を行う。
- ・沖縄の衣生活については、伝統衣装、染め織りをテーマにとりあげる。今回は、沖縄の伝統衣装を観察し、それをもとに、琉球張り子の人形をつくり、その観察した伝統衣装を、人形に再現する実習をおこなう。そうして、沖縄の伝統文化、衣装、工芸を理解し、創作する楽しさを体験する。

URGCC学習教育目標

地域・国際性、問題解決力、専門性

達成目標

沖縄の食生活・衣生活の文化を中心にその現状を踏まえながら、演習、ディスカッション等を通して生活課題について考察し、その改善に向けて取り組むことができる能力を養う。[自律性][社会性][地域・国際性][コミュニケーション・スキル][情報リテラシー][問題解決力][専門性]

評価基準と評価方法

講義・実習等への参加態度及び各講義における課題物：50%
最終課題（レポート・発表を含む）：50%

履修条件

特になし。

授業計画

- 1.オリエンテーション（担当：松本由香・田原美和）：10/1
- 2.沖縄の食生活の変遷と食文化（担当：田原美和）：10/8
- 3.沖縄の食生活の現状と課題（担当：田原美和）：10/29
- 4.琉球菓子＜演習含む＞（担当：田原美和）：11/5
- 5.日常食について考えてみよう（担当：田原美和）：11/12
- 6.年中行事の食＜演習含む＞（担当：田原美和）：11/19
- 7.食生活の課題解決に向けて（担当：田原美和）：11/26
- 8.課題発表、ディスカッション（担当：田原美和）：12/3
- 9.沖縄の伝統衣装・染め織りと琉球張り子工芸についての概説、風樹館見学（担当：松本由香）：12/10
- 10.琉球張り子のデザイン制作（担当：松本由香）：12/17

- 11.粘土で人形をかたちづくる・和紙を貼る（担当：松本由香）：12/24
- 12.和紙を切り外し、整形する（担当：松本由香）：1/7
- 13.胡粉塗り（担当：松本由香）：1/14
- 14.彩色する（担当：松本由香）：1/21
- 15.ニス塗り、琉球張り子の完成、作品と課題レポートのプレゼンテーション、ディスカッション（担当：松本由香）：1/28
- 16.定期試験（担当：松本由香・田原美和）：2/4

■ ■ 事前学習

事前には、授業内容についてあらかじめ情報を集めておくこと。

■ ■ 事後学習

事後には、授業ノートをまとめ、課題を調べておくこと。また実習では、授業でできなかった作業をしておくこと。

■ ■ 教科書にかかわる情報

■ ■ 教科書全体備考

適宜資料を配付する。

■ ■ 参考書にかかわる情報

■ ■ 参考書全体備考

適宜資料を配付する。

■ ■ 使用言語

日本語

■ ■ メッセージ

沖縄の食生活・衣生活文化について学び、理解を深めましょう。

■ ■ オフィスアワー

水曜昼休み・研究室（松本由香）
毎月第一水曜日12：00～12：40・研究室 事前にメールでご連絡下さい（田原美和）

■ ■ メールアドレス

mayuka@eve.u-ryukyu.ac.jp（松本由香）
tmiwa@edu.u-ryukyu.ac.jp（田原美和）

■ ■ URL

<http://w3.u-ryukyu.ac.jp/uminaibi>

平成31（令和元）年度 地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組
申請書

部局等：教育学部

取組名	地域とともに学びをキュレーションできる人材を育成するための取組	配分額	100千円			
取組の区分	新規申請					
対象科目名	子ども学フィールドワークⅠ					
科目の区分 (あてはまるものを選択又は記入)	組織	受講年次	教育種別	講義形態	必修選択	開講学期
	学部	2年次	専門教育	講義 演習 実習	必修	前学期
取組の実施概要・特色	①地域とともにある学校を支える教員は、子どもを取り巻く多くのヒト・モノ・コトとかかわりを持つことが必要とされている。しかし、表向きには共同/協働関係を掲げているものの、そこに関わる当事者が、実際に関わり合うことの意味やそこで生み出される多様な教育実践の意味について理解しているとは言い難い。そこで、本取組では、子どもの育ちを支える新たな共同/協働関係を追及する実践力を身に着けるために、子どもを取り巻く多様な声を聴く力を養う。その力をもとに、学校文化の内だけにとどまらず、地域の多様なリソースを活かし、地域とともに学びをキュレーションできる人材育成を目指す。 ②4月に、「子ども学フィールドワークⅠ」の授業科目を開設し、27人の学生を対象に講義を行い、各フィールドが持つ学びの文化や各フィールドに集う子どもの姿について学ぶ。さらに、連携自治体の教員や保育士、図書館司書職員等を外部講師とし、県内の子どもを取り巻く環境や課題および地域の共同/協働実践の現状について学ぶ。 ③5月からは、学校内外の3つのフィールドにわかれ、子どもたちの生活背景に寄り添いながら、各フィールドで過ごす子どもを観察する。さらに、各フィールドにおける多様なリソースや教育活動、子どもの学びの姿を調査し、創造的な教育プログラムを企画・作成する。 ④7月～8月には、各フィールドにおける多様なリソースを活かした教育プログラムの実践を行う。 ⑤6月には中間実践報告会、8月～9月には最終実践報告会を開催し、教育プログラム実践の効果と課題について議論・検討を行い、これまでの授業で不足していた実践力育成の部分の改善に反映させる。					
取組の効果 (地域課題解決・教育効果)	新たに経費を使用して実施する内容と教育的効果について、新規性・必要性がわかるように記述して下さい。 ①地域における学校内外のフィールドワークを通して、子どもを取り巻く声を聴く力や各フィールドにおける課題を把握・分析する力を向上させる。実践では、地域のリソースを活用した教育プログラムの企画・実践を通じて、コミュニケーション力と学びをキュレーションできる力を身につけさせる。 ②各フィールドで過ごす子どもの観察や多様なリソース・教育活動を調査し、					

	実態を把握することにより、教育プログラムの実践を行う際の基礎データとして活用する。 ③各フィールドにおけるヒト・モノ・コトとのかかわりを通し、学生のみならず、実践に参加する地域住民ならびに教育関係者に、地域とともにある学校の在り方についての意識の改善を図ることにもつながる。			
実施担当者 （代表者に※を付すこと）	氏 名		所属職名 （役職名）	担 当 分 担
	※高橋美奈子		准教授	総括（日本語教室フィールドにおける講義・調査・研修企画責任実施） 図書館フィールドにおける講義・調査・研修企画実施責任 図書館フィールドにおける講義・調査・研修企画実施 保育園フィールドにおける講義・調査・研修企画実施責任
	吉田悦治		教授	
	望月道浩		准教授	
	金城文雄		講師	
経 費	事 項	予 定 額 （千円）	積算内訳	備 考
	謝 金	30	・ 講師謝金 10,000円×3人×1回＝30,000円 ・ 消耗品（実践プログラム開発費） 画用紙（200@20）、色紙（300@50）、マジックセット（900@3）、木材（400@9）、絵具セット（900@3）、USB（1000@3）、模造紙（100@60） インクカートリッジ（7000@3）、ラミネートフィルム（200@10） ・ ポスター印刷費（A3・300部）	
	消 耗 品	60		
	印 刷 費	10		
スケジュール	4 月：「子ども学フィールドワークⅠ」科目を開講のため自治体との調整 4 月：「子ども学フィールドワークⅠ」科目の開講・講義 5 月：各フィールドにおける教育課題の具体的な把握のための調査を実施 5 月～7 月：各フィールドにおける教育プログラムの企画 6 月：中間実践報告会の開催 7 月～8 月：教育プログラムの実践 8 月：最終実践報告会の開催 9 月：「子ども学フィールドワークⅠ」報告書とりまとめ			

※全体で2枚以内にまとめること

科目番号			
子215			
開講年度	開講学期	曜日時限	開講学部等
2019	前学期	金3	教育学部
講義コード	科目名[英文名]	単位数	
306261001	子ども学フィールドワーク I	2	
担当教員[ローマ字表記]			
吉田 悦治, 高橋 美奈子 [takahashi minako], 金城 文雄, 望月 道浩 [mochizuki michihiro]			

授業の形態

演習又は実験、実習

アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ、学生が文献や資料を調べる

授業内容と方法

本授業は、多様な学びの文化を、特定の「場＝フィールド」を通して考察し、同時代的・創造的な教育プログラムについて実践探求するものである。子ども教育開発専修では、前期科目「子ども学フィールドワークⅠ」を履修することにより、教職実践に関する科目であり小学校実習登録条件である「教職体験Ⅱ（小）」を履修したものとしている。

2019年度前期科目「子ども学フィールドワークⅠ」（以下、本科目）では、受講学生が後に示す3つのフィールドの中から1つのフィールドを選択し、そのフィールドの子どもたちにかかわる中で、教師に求められる子ども理解を培うことを目的としている。ここでの子ども理解とは、1年次後期科目「教職体験Ⅰ（小）」での附属小学校における観察を主体とした体験、並びに、1年次後期科目「体験子どもの世界・学びの世界」（学校教育専攻必修科目）での体験を基盤としながらも、本科目が設定する3つのフィールドで過ごす子どもたちの＜声＞に耳を傾け、学校内外で過ごす子どもの姿も踏まえつつ、その子どもたちの生活背景にも寄り添いながら、より深い子ども理解をめざすものである。

北谷町立北玉小学校日本語教室での支援活動、ポケット保育園（宜野湾市）での身体運動遊びを通じた活動、北谷町立図書館及び近隣の小学校での子どもと本などを介したさまざまな活動に関わる。その中では、現場教師／関係者とのリフレクションのみならず、それぞれのフィールドで子どもたちにかかわる大人とのかかわりも交えながら、それぞれの地域で育つ子どもたちの姿を観察することで、子どもたちの＜声＞そのものはもとより、＜声にならない声＞にも可能な限り寄り添うことができるようリフレクションを実施し、より深い子ども理解等へ結びつけることができるようにする。

学生が体験する活動としては、次のようなものを想定している。

- ① 各フィールドそのものの持つ＜学びの文化＞に関する観察
- ② 各フィールドに集う子どもたちの＜声＞を聴くことによる子ども理解
- ③ 各フィールドで展開される教育活動などの手伝い
- ④ 「教科」の学習という枠組みを超えた子どもたちの＜学びの姿＞の理解
- ⑤ 各フィールドで日常的に展開される学習や教育活動への参加を通じた創造的な教育プログラムのあり方に関する省察

これらの項目について、前期間において体験するようプログラムを設定する。プログラムについては、各フィールドの年間計画に沿いながら、各々の実情にあわせて計画・実施するものとする。

* 各フィールドの世話役教員は、高橋美奈子が北玉小学校の日本語教室、金城文雄が宜野湾市のポケット保育園、吉田悦治・望月道浩が北谷町立図書館を担当する。

URGCC学習教育目標

自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、問題解決力、専門性

達成目標

1年次の「教職体験Ⅰ」科目や「体験子ども世界・学びの世界」科目の体験を活かしつつ、学校内外で過ごす子どもとのかかわりを体験することによって、子どもの＜声＞そのものを聴くことを念頭に子ども理解を深め、各フィールドが有する地域のリソースを活かした実践的指導力の向上を図る。

評価基準と評価方法

大学の担当教員が評価する。その際、各フィールド関係者とのリフレクション、学生の自己評価を踏まえた評価とする。

■ ■ 履修条件

- ・子ども教育開発専修2年次であること
- ・「教職体験Ⅰ（小）」を履修済みのこと

■ ■ 授業計画

第1回 オリエンテーション（4月12日）
第2～3回 各フィールド見学・体験、各フィールドでのガイダンス
※4月26日までにどのフィールドで活動するか決定すること。

第4回 フィールドリサーチ1
第5回 フィールドリサーチ2
第6回 フィールドリサーチ3
第7回 予備的实践
第8回 創造的な教育プログラムのプラン検討1
第9回 実践中間報告会（6月14日）
第10回 創造的な教育プログラムのプラン検討2
第11回 創造的な教育プログラムの各フィールドでのプレゼン
第12回 本実践プランのブラッシュアップ
第13回 本実践準備
第14回 創造的な教育プログラムの本実践
第15回 各フィールドでの振り返り
第16回 実践最終報告会（8月2日）

■ ■ 事前学習

フィールドワークの計画。

■ ■ 事後学習

フィールドワークの記録。

■ ■ 教科書にかかわる情報

■ ■ 教科書全体備考

■ ■ 参考書にかかわる情報

■ ■ 参考書全体備考

■ ■ 使用言語

日本語

■ ■ メッセージ

■ ■ オフィスアワー

平成31（令和元）年度 地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組
申請書

部局等：教育学部

取組名	地域社会に学ぶ小学校教員養成カリキュラムの構築（学校教育専攻必修科目における体験実習を通じて）			配分額	100千円	
取組の区分	継続申請					
対象科目名	体験「子どもの世界・学びの世界」					
科目の区分 （あてはまるものを選択又は記入）	組織	受講年次	教育種別	講義形態	必修選択	開講年度学期
	学部	1年次	専門教育	実習	必修	平成31年度後学期
取組の実施概要・特色	①本科目は、教育学部学校教育専攻の必修科目として、本年度より新規に始める科目である。小学校教員養成の1年次が、沖縄のさまざまな地域・学校で子どもと出会い、子どもの世界を体験的に学ぶことで、子ども理解など教育実践力の基礎を養うことをめざすものである。 ②本講義では、50名の学生を5つのグループにわけ、それぞれボランティア活動や観察実習、ワークショップ等の活動に参加する。今回は、①むぎのこ共同保育園、②沖縄県内の盲・聾・特別支援学校、③こども食堂（沖縄市のももやま食堂）、④太陽学童の⑤珊瑚舎スコーレの5つのグループにわかれ、学生が体験的に子どもの遊びや活動、支援の現場に入ることとする。 ③学生たちの体験は、全体交流会にて共有し、それぞれの活動を振り返り、記録化する。					
取組の効果 （地域課題解決・教育効果）	①学校現場だけでは見えない子どもの生活背景や、遊びを通じて学ぶ子どもの姿を、学生が体験を通してみたり、聞いたりすることで、教員として最も重要な資質である子ども理解につなげ、教育実践力の基礎を養うことができる。 ②沖縄の特徴的なフィールドを選ぶことで、地域社会への貢献を担ってきた。特筆すべきは、授業後も、継続的にボランティアを行う学生たちが増えており、本取組みが地域貢献の場づくりになっていることである。					
実施担当者 （代表者に※を付すこと）	氏名	所属職名 （役職名）		担当分担		
	吉田悦治	准教授		学生への助言・指導		
	松本由香	教授		学生への助言・指導		
	金城文雄	講師		学生への助言・指導		
	浅井玲子	教授		学生への助言・指導		
	小川由美	准教授		学生への助言・指導		
	田場あゆみ	講師		学生への助言・指導		
	日熊隆則	准教授		学生への助言・指導		

	緒方茂樹 岡花祈一郎 山口剛史＊		教授 准教授 准教授	学生への助言・指導 学生への助言・指導 学生への助言・指導	全体の調整 全体の調整
経 費	事 項	予 定 額 (千円)	積 算 内 訳		備 考
	謝 金	80千円	各グループ1回ずつの講師招聘による講話 20,000円×4名（のべ）＝80,000円 むぎのこ共同保育園 園長講話 2コマ こども食堂 担当者講話 2コマ 太陽学童 担当者講話 2コマ 珊瑚舎スコーレ 2コマ		
	消 耗 品	20千円	各グループにおける実習に関わる教材作成等の消耗品 まとめワークショップ・報告会に関わる事務消耗品		
スケジュール	第1回（10月4日） 登録調整・ガイダンス・授業概要（各フィールドの取り組みについて） 第2回（10月11日）各フィールド別オリエンテーション 第3回 各フィールドにおける体験活動1/10 第4回 各フィールドにおける体験活動2/10 第5回 各フィールドにおける体験活動3/10 第6回 各フィールドにおける体験活動4/10 第7回 各フィールドにおける体験活動5/10 第8回 各フィールドにおける体験活動6/10 第9回 各フィールドにおける体験活動7/10 第10回 各フィールドにおける体験活動8/10 第11回 各フィールドにおける体験活動9/10 第12回 各フィールドにおける体験活動10/10 第13回 （1月10日）フィールドごとの報告・振り返り 第14回 （1月24日）フィールドごとの報告・振り返り 第15回（1月31日） 全体フォーラム・ディスカッション				

科目番号			
学共103			
開講年度	開講学期	曜日時限	開講学部等
2019	後学期	集中	教育学部
講義コード	科目名[英文名]	単位数	
306306002	体験 子どもの世界・学びの世界	2	
担当教員[ローマ字表記]			
浅井 玲子, 吉田 悦治, 緒方 茂樹, 小川 由美, 山口 剛史, 岡花 祈一郎 [Kiichiroh Okahana], 田場 あゆみ [Ayumi Taba], 日熊 隆則, 金城 文雄, 松本 由香			

授業の形態

実習

アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ

授業内容と方法

学校教育における多様な学びの場をつくり、育ちを支える力の基礎として、学生自身の物事を「みる」眼・「きく」耳を養う。フィールドワークやワークショップなどの体験を通じて、子どもはどのように世界に触れ、感じ、考えるのかといった視点から、子どもが育まれる様々な環境・生活体験の場を見つめなおし、実践的に学んでいく。また、かつて「子ども」であった自分自身をも相対化させながら、子どもに注ぐ眼差しを問い直し、更新させていける力を築く。「教える立場」に立つ前に、子どもの目線から物事を「みる、きく、かんじる、あらわす」機会とし、そこに宿る「子どもの世界・学びの世界」を「場＝フィールド」から見出し探求していく。

URGCC学習教育目標

自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、専門性

達成目標

1. 子ども理解の視点に立ち、子どもの目線から物事を「みる、きく、かんじる、あらわす」活動に自律的に取り組むことができる。[自律性]
2. 各フィールドでの体験活動を通して、子どもの「みている」「きいている」世界について、自分なりに考察を深めることができる。[問題解決力]
3. 沖縄の地域的な特徴（子どもの貧困など）の現場体験を通じて、子どもたちをとりまく地域社会への理解を深め、教員の役割を考える事ができる[地域・国際性]

評価基準と評価方法

最終評価は、毎回の活動への積極的な参加とレポート・フィールドワークノートや提出物、活動における取組のプロセス、最終発表などをもとに、担当教員毎にそれぞれ総合的に評価する。

履修条件

学校教育専攻1年次

授業計画

第1回（10月4日） 登録調整・ガイダンス・授業概要（各フィールドの取り組みについて）
第2回（10月11日） 各フィールド別オリエンテーション

第3回 各フィールドにおける体験活動1/10
第4回 各フィールドにおける体験活動2/10
第5回 各フィールドにおける体験活動3/10
第6回 各フィールドにおける体験活動4/10

- 第7回 各フィールドにおける体験活動5/10
- 第8回 各フィールドにおける体験活動6/10
- 第9回 各フィールドにおける体験活動7/10
- 第10回 各フィールドにおける体験活動8/10
- 第11回 各フィールドにおける体験活動9/10
- 第12回 各フィールドにおける体験活動10/10
- 第13回 (1月10日) フィールドごとの報告・振り返り
- 第14回 (1月24日) フィールドごとの報告・振り返り
- 第15回 (1月31日) 全体フォーラム・ディスカッション

■ ■ 事前学習

各組の体験活動に応じて、各自十分な準備を行い臨むこと。

■ ■ 事後学習

体験活動等について、各自で振り返りを行い、考察を深めること。

■ ■ 教科書にかかわる情報

■ ■ 教科書全体備考

■ ■ 参考書にかかわる情報

■ ■ 参考書全体備考

■ ■ 使用言語

日本語

■ ■ メッセージ

■ ■ オフィスアワー

■ ■ メールアドレス

■ ■ URL

平成31(令和元)年度 地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組
申請書

部局等：教育学部

取組名	離島地域の学校・授業づくりに学ぶ小学校教員養成（教職実践演習による離島実習を通じて）	配分額	100千円			
取組の区分	継続申請					
対象科目名	教職実践演習（教諭A）6組					
科目の区分 （あてはまるものを選択又は記入）	組織	受講年次	教育種別	講義形態	必修選択	開講学期
	学部	4年次	専門教育	演習・実習	必修	後学期
取組の実施概要・特色	①本演習は、教員免許の総まとめの科目として行われているものである。沖縄県は多くの離島へき地校をかかえており、本県で公立学校教員をめざすものにとって、いち早く離島へき地校の学校づくり、小規模複式学級という中での授業づくりを学ぶことは、沖縄県の教員の資質を向上させるうえで不可欠な取り組みである。具体的に離島校において実習しながら学び、学生どうしの学びあい、教員とのリフレクションを入れることで、アクティブラーニングを取り入れた演習となっている。 ②これまでも離島における演習についてすすめてきたが、2017年度から教員養成カリキュラムの変更に伴い、離島実習の規模の拡大、新規協力校の開拓を実施せざるをえなくなった。それにともない竹富町教育委員会との連携事業を拡大し、竹富町の子どもたちに広く還元できる形で改善をすすめている。今年度は、これらの成果を踏まえ、継続的な実習システムの構築と、離島校教員の小規模・複式の支援を組み合わせることで、学生への教育効果（沖縄県学校教員としての資質）を高めることを目指す。 ③学生たちは、1週間離島実習を2～3カ所にわかれて実施する。その際、学生たち同士の共同によって、学習指導案の作成、授業の実施、授業研究会の実施などのとりくみをすすめる。これまでは、それぞれの学校ごとのとりくみにとどまっていたが、人数が拡大したために、学校教員との共同、大学教員の体制の強化により、学生指導の充実を図る。					
取組の効果 （地域課題解決・教育効果）	①沖縄県の小学校教員として、不可欠な離島勤務、その中での少人数指導・複式指導を体験することで、実践力をもった教員養成に資することができる。これまでの演習を体験した学生が、実際に2校目勤務として離島赴任するケースが生まれ、複式や離島校での実習経験をもった学生が実際に学校教育現場で活躍している。今回の実習先にも複数名の卒業生もおり、これら卒業生との協働により、より学校教育現場をリアルに学ぶことができる。 ②西表島という離島の中で、日頃大学生に触れる機会がなく、教育実習生もこない学校の子どもたちにとって貴重な教育経験となり、学校教育への効果（キャリア教育の観点など）がこれまでも実証されてきた。引き続き、地域貢献として学校の子どもたちへの教育効果をめざす。 ③指導する大学教員が、実習校で指導助言や講習を実施することで、これまでアドバ					

	イザリースタッフ事業を通じて蓄積されてきた成果を、西表島地域の学校にも還元することができる。				
実施担当者 (代表者に※を付すこと)	氏 名		所属職名 (役職名)	担 当 分 担	
	淡野将太※ 山口剛史		准教授 准教授	学生指導 教育委員会との調整、学生指導	
経 費	事 項	予 定 額 (千円)	積算内訳		備 考
	旅 費	60千円	大学教員引率旅費（離島実習の1週間） 30,000円×2名＝60,000円		
	借 上 げ	40千円	島内移動のためのレンタカー借上げ 20,000円×2台＝40,000円		
スケジュール	10月7日～10月11日 西表島での実習 10月31日 実習のまとめ 11月8日 実習のまとめ				

科目番号			
教職491			
開講年度	開講学期	曜日時限	開講学部等
2019	後学期	金1	教育学部
講義コード	科目名[英文名]		単位数
305967062	教職実践演習（教諭A） 6組		2
担当教員[ローマ字表記]			
山口 剛史, 淡野 将太			

授業の形態

アクティブラーニング

授業内容と方法

本授業は、教職実践演習として離島へき地校における学級経営ならびに授業実施の計画を策定し、実際に一週間程度の実習を実施するために必要なスキルを身につけることを目的とします。

実際に一週間の実習を通じて、教師に必要なスキルを獲得します。

URGCC学習教育目標

達成目標

（１）教職の意義を理解し、教職への使命感を高める。（２）コミュニケーション力を含めた社会性の向上。（３）子ども理解力及び学校・学級経営力の向上。（４）教育計画力ならびに実践的指導力の向上。の４つを総合的に判断する科目として本科目を設定する。

とりわけ、本組では離島の学校現場を対象に実践的演習を実施することを通じて授業目標に接近するものとする。

評価基準と評価方法

琉球大学の評価基準表に基づき、教員用評価シートの項目（１５項目）によって評価する。評価は「日々のとりくみ」と「総合的な評価」の組み合わせで最終的な評価をする。

履修条件

前期、教職実践研究６組を履修済みであること

授業計画

- 1回目 授業の主旨、評価方法の確認
- 2回目 具体的活動計画の確認
- 3回目 離島へき地校学校における現場実習
- 4回目 離島へき地校学校における現場実習
- 5回目 離島へき地校学校における現場実習
- 6回目 離島へき地校学校における現場実習
- 7回目 離島へき地校学校における現場実習
- 8回目 離島へき地校学校における現場実習
- 9回目 離島へき地校学校における現場実習
- 10回目 中間総括と課題発見（現場におけるリフレクション）
- 11回目 離島へき地校学校における現場実習
- 12回目 離島へき地校学校における現場実習
- 13回目 離島へき地校学校における現場実習
- 14回目 総括と反省（学校現場におけるリフレクション）
- 15回目 最終報告会

事前学習

実施計画の具体化、実習校との調整等が入ります。

事後学習

実習のふりかえりを実施します。

教科書にかかわる情報

教科書全体備考

参考書にかかわる情報

参考書全体備考

使用言語

日本語

メッセージ

小学校を中心に実習を考えているため、できるかぎり小学校教員への高い希望をもっているものを優先する。
離島へき地教育に関して高い関心と志をもつ学生の受講を希望する。

オフィスアワー

メールアドレス

t-yama@edu.u-ryukyu.ac.jp
syota@edu.u-ryukyu.ac.jp

URL

平成31(令和元)年度 地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組
申請書

部局等：教育学部

取組名	地域における子育て支援プログラムの作成と実施	配分額	100千円			
取組の区分	継続申請					
対象科目名	乳幼児教育学					
科目の区分 (あてはまるものを選択又は記入)	組織	受講年次	教育種別	講義形態	必修選択	開講学期
	学部	2年次	専門教育	演習	必修	後学期
取組の実施概要・特色	本取組では、待機児童による子育て支援のニーズが高い地域を対象として、学生たちが子育て支援プログラムを作成し実施することを通して、乳幼児期の育ちおよび保護者の子育てを理解した教育者の育成を目指すものである。 11月【子育てプログラムの立案】那覇市で最初に子育て支援センターを立ち上げた「みどり保育園」にプログラム立案のアドバイザーとし講義にご参加いただく。3グループに分けてそれぞれでプログラムを実施する予定である。 12月【プログラムの実施】地域のなかで場所を借り、学生主体の子育て支援プログラムを実施する。その際、保護者の方へ案内やアンケートや参加した子どもにインタビューを実施する。 1月【プログラムの振り返り】アンケートやインタビュー、当日の様子をもとに、今回のプログラムの成果を検証し、学生たちで振り返り報告会を実施する(13回目の報告会に招聘)。					
取組の効果 (地域課題解決・教育効果)	① 地域の子育て支援に対して琉球大学の学生がコミットメントすることにより大学の地域貢献につながる。 ② 学生にとっては、子育てをする立場、そして、子どもの側に立ったプログラムを立案することでより深い乳幼児理解と保育の学びにつながると考えられる。 ③ 単に「楽しんでもらう」イベントではなく、保護者の子育てエンパワメント、子どもたちにとってどのような経験として意味づけられるかについても議論を深めたい。					
実施担当者 (代表者に※を付すこと)	氏名	所属職名 (役職名)	担当分担			
	*岡花 祈一郎	准教授	プログラムの統括、および保育園側とのコーディネート			
経費	事項	予定額 (千円)	積算内訳			備考

	謝金	40	みどり保育園 保育者講話の謝金 (20,000 × 2名 = 40,000円)	
	賃料	20	プログラム会場費	
	消耗品	20	子育て支援の道具 (ボールプール、マット等 = 20,000円)	
		20	プログラムに関する消耗品、記録用メモリ等 (= 20,000円)	
スケジュール	11月【子育てプログラムの立案】（保育者講話1回）第7回（11/11） 12月【プログラムの実施】（地域のなかでのプログラム実施）第11回（12/23） 1月【プログラムの振り返り】（保育者を招聘し共同での振り返り）第12回（1/6）			

※全体で2枚以内にまとめること

科目番号			
子212			
開講年度	開講学期	曜日時限	開講学部等
2019	後学期	月2	教育学部
講義コード	科目名[英文名]		単位数
306260002	乳幼児教育学		2
担当教員[ローマ字表記]			
岡花 祈一郎 [Kiichiroh Okahana]			

授業の形態

演習又は実験

アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ、学生が文献や資料を調べる

授業内容与方法

本授業は、乳幼児期の保育・教育の基礎的な理解を深め、それを踏まえ、沖縄県の抱える待機児童問題と子育て支援の実態に参画しながら学びを深める。那覇市の保育園や子育て支援センター等を見学し、そこで行われている子育て支援の実態とニーズ等を保育者との対話を通して理解する。さらに保護者と子どもを取り巻く現状をふまえた子育て支援プログラムを学生たちが作成し、実施振り返りを行う。本授業は、地域の子育て支援センターと連携しながら行う、アクティブ・ラーニングであり、将来の教員として現場に立つうえで保護者連携や地域に開かれた学校作りに参画できる資質を養う。

URGCC学習教育目標

自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、問題解決力、専門性

達成目標

1. 乳幼児の発達と教育に関する基礎的な知識を理解できる[専門性]。
2. 地域の乳幼児の保育ニーズを理解し、その解決に向けて積極的に提案することができる。[地域・国際性]・[問題解決力]
3. 保育者や保護者、そして子どもと実際にかかわりながら、相手の立場を理解しつつ自身の考えを適切に表現できる。[コミュニケーション・スキル]
3. グループのメンバーと協調して意見を交わすことができる。[社会性]

評価基準と評価方法

最終評価は、毎回の活動への積極的な参加とレポート・フィールドワークノートや提出物、活動における取組のプロセス、最終発表などをもとに総合的に評価する。

履修条件

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 現代の保育の課題
- 第3回 保育制度の歴史的展開
- 第4回 沖縄の保育における現状と課題
- 第6回 乳幼児の発達と子育て支援
- 第7回 子育て支援の方法とアプローチ
- 第8回 子育て支援センターの観察
- 第9回 子育て支援プログラムの作成(1)
- 第10回 子育て支援プログラムの作成(2)

- 第1 1回 子育て支援プログラムの実施
- 第1 2回 プログラムの反省と振り返り（保育者との共同カンファレンス）
- 第1 3回 保護者の支援とカウンセリングマインド
- 第1 4回 地域的課題と今後の乳幼児教育
- 第1 5回 まとめ

■ ■ 事前学習

保育園や幼稚園でのボランティアに参加しておくことが望ましい。

■ ■ 事後学習

観察記録や振り返りシートは必ず作成提出すること。

■ ■ 教科書にかかわる情報

■ ■ 教科書全体備考

特に指示しない。適宜資料を配付します。

■ ■ 参考書にかかわる情報

■ ■ 参考書全体備考

■ ■ 使用言語

日本語

■ ■ メッセージ

■ ■ オフィスアワー

■ ■ メールアドレス

kiichi@edu.u-ryukyu.ac.jp

■ ■ URL

平成 3 1 (令和元) 年度 地域志向活動トライアル経費による
正課科目における地域志向取組申請書

部局等： 教育学部

取組名	プログラミング教育教員不足の解決に貢献する人材育成に向けた取組			配分額	100千円			
取組の区分	新規申請							
対象科目名	技術科教育法 B							
科目の区分 (あてはまるものを選択又は記入)	組織	受講年次	教育種別	講義形態	必修選択	開講学期		
	学部	3 年次	専門教育	講義 演習 実技	必修	前学期		
取組の実施概要・特色	①小学校プログラミング教育必修化が来年度に迫っているにもかかわらず、学校現場では先行授業の実施はおろか、英語科・道徳科の必修化に追われていてプログラミングの教員研修、校内研すらままならない状況である。本取組では、地域におけるプログラミング教育教員不足という課題を解決するために、「プログラミング教育に関する学校教員と学部学生との合同キャンプ」を実施することによって、「プログラミング能力」や「プログラミング教育の指導案作成」といった能力を有した人材の育成を目指す。 ②8月に、講義「技術科教育法 B」の指導案作成及び指導計画の発表とディスカッションのコマ(後半6コマ分)を2泊3日の「合同キャンプ」として集中開設し、学部学生(4人)と学校現場の教員(10人程度)を対象にプログラミングワークショップ及び指導案作成と発表会を行う。参加教員の所属する自治体の教育委員会や現場教員も見学可能とする。米国ボストン MIT メディアラボ村井ゆみこ氏を外部講師とし、プログラミングワークショップ及び学生や教員への指導案フィードバックを展開する。 ③2～3月にキャンプ参加自治体を対象に先行授業もしくは校内研での取り扱いについて調査を行い、学校現場におけるプログラミング教育の準備状況を把握し、来年度から本学部で新規開講する「小学校プログラミング教育概論」に反映させる。							
取組の効果 (地域課題解決・教育効果)	①「学校現場教員と学生の合同キャンプ」を実施することで、学生のプログラミング能力、コミュニケーション能力、現場に応じた指導力を身につけさせる。合同キャンプを通したワークショップ及び指導案作りに学校現場教員や教育委員会を参加させることで、来年度から必修化される小学校プログラミング教育に対し具体的な授業イメージをもって対応してもらうことができる。希望する教員及び教育委員会へは、学生と一緒に先行授業や校内研でのブラッシュアップ・フィードバックを実施する。 ②年度末(2～3月)の調査により、参加自治体における先行授業や校内研での取り扱い状況を把握し、来年度から新規開講する「小学校プログラミング教育概論」を行う際の基礎データとして活用する。本取組が軌道に乗れば、学校現場で							

	プログラミング教育への実践力を持った人材を各地域へ供給することができる。			
実施担当者 (代表者に※を 付すこと)	氏 名		所属職名 (役職名)	担 当 分 担
	岡本牧子		准教授	学生指導、外部連携調整、外部講師依頼等
経 費	事項	予定額 (千円)	積算内訳	備 考
	旅費	70	キャンプ宿泊代 3,500円×2泊×10人=70,000円	
	謝金	30	キャンプ外部講師謝金 5,000円×6時間=30,000円	
スケジュール	6月 プログラミング教育キャンプ実施のための外部との調整 6月後半～7月 教育事務所や教育委員会宛に公文書送付 8月19-21 プログラミング教育研修(教員・学生合同) 9月 指導案フィードバック(希望する学校では、先行授業を実施) 2-3月 参加自治体でのプログラミング教育準備状況調査			

※全体で2枚以内にまとめること

科目番号			
技371			
開講年度	開講学期	曜日時限	開講学部等
2019	前学期	月1	教育学部
講義コード	科目名[英文名]		単位数
304149001	技術科教育法 B		2
担当教員[ローマ字表記]			
岡本 牧子			

授業の形態

講義、演習又は実験

アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、学生が文献や資料を調べる

授業内容与方法

技術科の授業における情報機器の活用と教材教具について学ぶ。
技術科の学習評価方法として統計技法について講義および演習を行う。
学習評価を含めた指導計画の作成を行う。

URGCC学習教育目標

自律性、コミュニケーション・スキル、専門性

達成目標

1. 技術科の授業における情報機器について操作できる。(教科内容についての理解、教育実践力)
2. 技術科における学習評価の方法を説明できる(学校教育に関する理解、教科内容についての理解、教育実践力)
3. 基礎的な統計技法を理解し、計算することができる(学校教育に関する理解、教育実践力)

評価基準と評価方法

授業毎に基本演習問題を実施するかまたはレポートを課すので、これらの成績を50%、中間試験の成績を20%、期末試験の成績を30%として評価を行う(実力テストの点数は成績に含めません)。

合計100点満点中、60点以上で単位取得条件とする。期末試験終了後、合計点数が55～60点の者は、追試験を受けることができる。

A評価・・・90点以上

B評価・・・80点以上90点未満

C評価・・・70点以上80点未満

D評価・・・60点以上70点未満

追試験・・・55点以上60点未満

* 実習等で講義を休む場合は事前に届け出ること(緊急の場合は事前にメール、後に欠席届を提出)。

本人以外の口頭による届け出は認めません。

履修条件

技術科教育法Aを取得済みのこと。
ノートPCと関数電卓が準備できること。

授業計画

第1回：教員採用試験(沖縄県)についての情報提供や対策など(実力テスト)

第2回：情報機器の活用について

第3回：技術科の評価について(観点、基準など)

第4回：評価のためのサンプリングについて
第5回：基本的な統計技法について1(平均と分散)
第6回：基本的な統計技法について2(信頼区間)
第7回：中間確認(統計技法が中心)と評価観点、基準、サンプリング方法のまとめ
第8回：サンプリングのためのワークシートづくり
第9回：学習評価を含めた指導案作成(附属中学校のフォーム使用)
第10回：指導案のフィードバック
第11回：指導計画について
第12回：指導計画についての発表とディスカッション(受講者1,2,3)
第13回：指導計画についての発表とディスカッション(受講者4,5)
第14回：指導計画についての発表とディスカッション(受講者6,7)
第15回：総括
定期試験(全体が試験範囲)

■ 事前学習

関数電卓の使い方、Excel等の表計算ソフトの基本的な使い方、ファイルを添付したメールの送受信方法をマスターしておいてください。

■ 事後学習

教育分野では統計処理は重要な手段の一つです。
講義の内容を理解していれば、有意差などの正しい理解と教育への活用が可能です。

■ 教科書にかかわる情報

教科書	書名	技術科教育概論			ISBN	9784798502335	備考
	著者名	日本産業技術教育学会・技術教育分科会編					
	出版社	九州大学出版会	出版年	2018	NCID		

■ 教科書全体備考

中学校学習指導要領(平成20年、平成29年公示)解説- 技術・家庭編-
新しい技術・家庭 技術分野、東京書籍
技術・家庭 技術分野、開隆堂

■ 参考書にかかわる情報

■ 参考書全体備考

■ 使用言語

日本語

■ メッセージ

授業の評価につかえる統計技法について細かく講義し、すぐ使えるExcelシートを講義中に作成していきます。

■ オフィスアワー

月曜日14:30~15:50
他の時間はメールで連絡してください。

■ メールアドレス

makiko_y@edu.u-ryukyu.ac.jp

平成31（令和元）年度 地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組
申請書

部局等：教育学部（教育学研究科）

取組名	沖縄県の支持的風土をつくる特別活動に貢献 する人材の育成に向けた取り組み	配分額	100千円			
取組の区分	新規申請					
対象科目名	特別活動論（教諭）					
科目の区分 （あてはまるもの を選択又は記入）	組織	受講年次	教育種別	講義形態	必修選択	開講学期
	学部	2年次	共通教育	講義	必修	後学期
取組の実施概要・特色	① 本取組では特別活動を中心に沖縄県教育委員会が力を入れている「支持的風土のある学級づくり」を学生に広め、いじめや不登校、学級崩壊の課題を解決するために沖縄県内の学校や他県の実践を実践者に報告してもらい、いじめや不登校の事例などを分析することを通して「当事者の心理」や「子ども理解」の能力を有した地域志向の人材の育成を目指す。 ② 10月に「特別活動論」の授業科目を開設し、50人の大学生を対象に講義を行う。支持的風土づくりの特別活動を対象に特別活動の実践者を沖縄県内外から外部講師として招き、実践例や学習指導要領と比較・調査し、これまでの授業の学習を生かして沖縄県の抱える課題を他地域と比較し教師としての対応方法や改善策をグループや全体でディスカッションするなど能動的な学習を展開する。 ③ 12月には、連携自治体の沖縄市教育委員会のいじめ重大事件担当を外部講師として招き事件の全体像を可能な限り明らかにし、いじめの構造分析や重大事件への対応方法をグループで検討し教師としての観察力や対応方法、仲間づくりの部分を具体的に補い改善に反映させる。					
取組の効果 （地域課題解決・教育効果）	① 支持的風土のある学級づくりを実践する教師を招聘し、実践報告・分析を実施することで学生の特別活動に対する興味や関心を高め実践力、貢献する意欲を向上させる。また、教員となった際に支持的風土のある学級づくりの重要性を自治的な集団づくりの視点から学び、意識の改善を図る。 ② いじめ問題に関する対応を講義で取り上げ関係機関の方を講師として招き、整理することにより、沖縄県におけるいじめの実態と対応を把握し、学生のいじめに対する見方を人権的な立場から深め構造的に事件を捉える力を向上させる。 ③ グループワークを取り入れ、沖縄県内外の実践事例を通して、子どもや集団のとらえ方を学び、実践力の向上を目指すとともに、沖縄県における特別活動の実態を把握し改善点をグループごとにプレゼンし学校現場で指導を行う際の実践的な力を高める。 ④ アクティブ・ラーニングの手法を導入し、児童会活動やクラブ活動のあり					

	方を調査、レポート、ディスカッションし、交流することにより視野を広げレポート発表を行い実践力の向上を目指し、学生の参加により授業評価の率を80%程度まで上昇させる。			
実施担当者 (代表者に※を付すこと)	氏 名	所属職名 (役職名)	担 当 分 担	
	丹野 清彦	教職大学院・教授	学生指導	
経 費	事 項	予 定 額 (千円)	積算内訳	備 考
	謝 金	30	・ 講師謝金 ◎10,000円×3人=30,000円	
	旅 費	50	・ 調査旅費及び講師旅費 ◎40,000×1人=40,000円 (東京) ◎5,000×2人=10,000円 (沖縄県)	
	消耗品	20	・ 消耗品 ◎ (図書関係) 10,000円 ◎ (事務用品) 10,000円	
スケジュール	10月	「特別活動論」科目を開講のため沖縄県の特別活動研究会を調整		
	10月	「特別活動論」科目の開講		
	11月	「特別活動論」科目を開講のため沖縄市の関係機関との調整		
	12月	「特別活動論」科目を開講し、支持的風土のある学級づくりを実践している外部講師を招聘		
	2月	「特別活動論」実施の報告書とりまとめ		
	2月	「特別活動と支持的風土のある学級づくり」の公開研究会を開催		

※全体で2枚以内にまとめること

科目番号			
教職235			
開講年度	開講学期	曜日時限	開講学部等
2019	後学期	月5	教育学部
講義コード	科目名[英文名]		単位数
306231002	特別活動論（教諭）		2
担当教員[ローマ字表記]			
丹野 清彦			

授業の形態

講義、演習又は実験

アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する

授業内容与方法

- ①特別活動に力を入れ、支持的風土のある学級づくりを実践する教師を招き実践報告や分析を行うことで特別活動に対する興味や関心を高め実践力を向上させる。また支持的風土のある学級づくりの重要さと具体的な手立てをテキストに即して具体的に明らかにする。
- ② いじめ問題に関する対応を講義で取り上げ関係機関の方を講師として招き、整理することにより、沖縄県におけるいじめの実態と対応を把握し、いじめに対する見方を人権的な立場から深められるようにする。
- ③ 方法としてアクティブ・ラーニングの手法を導入し、グループワークを取り入れ、毎時間グループごとにプレゼンし積極的な参加を促す。

特別活動について、学習指導要領とテキストをもとに、より広い視野と実践的な見地から学ぶ。演習を通して理論と実践の往還を図りながら、より実践的な対応について修得し、理論と実践を意識した力を身につける。沖縄県では、毎年のようにいじめに関した重大事案の報道がされ、多くの教育関係者や保護者・地域の方が胸を痛めている。いじめや不登校の問題は発達障害を持つ子どもや貧困問題と関連し学級や学校、あるいは地域で孤立している子どもや家庭も多く、沖縄県の抱える地域的な課題のひとつであるといえよう。しかし、いじめ・いじめられる子どもをどう分析子ども理解を図ればよいのか、より良い集団、より良い人間関係づくりを目指し特別活動としての構想や積極的な指導についての専門的な知識と技術が必要であることを解説する。

URGCC学習教育目標

自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、問題解決力、専門性

達成目標

特別活動を中心に支持的風土のある学級づくりを学生に広め、いじめや不登校、学級崩壊の課題を解決するため沖縄県内の学校や他県の実践を報告してもらい、それらから学級集団が協力、連帯して共に学び生活するためには、どのような特別活動や教師の指導、工夫が必要かをワークショップやグループ活動を通して、体験的に学び理論と実践をつなぐことができる。

- 1) 学習指導要領の特別活動の目標や意義、内容を理解し、教育課程における特別活動の特質や持つ意味、教科との関連を理解する。【専門性】
- 2) 合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる個別や集団の指導を沖縄県内の実践や他県の実践を比較しワークショップ的に取り組むことができる。【地域・国際性】【コミュニケーション・スキル】
- 3) 問題を起こす子や気になる子には、成育歴や家庭環境に課題を抱えている場合が多く、彼らの問題行動を否定の中の肯定として読み替える力やどのような支援や指導が必要なのか対策を考え、いじめのメカニズムや基礎的な知識を理解できる。【自律性】【社会性】【コミュニケーションスキル】
- 4) 子どもの権利条約や人権的な視点からいじめや教師の発言を見直し、個と集団の指導の基礎を身につけることができる。【専門性】
- 5) 学級や学校での生活の中でいじめのない関わりのつくり方を整理・考察し地域性を意識した学校行事や学級イベントなどの自主的な活動を年間計画に位置付け、自治的な活動を作りだすことを意図する基礎的な実践力を身につけることができる。【問題解決の能力】【地域・国際性】

評価基準と評価方法

- ①毎時間、ミニレポートを提出する(45%)

- ②授業の中でのワークや表現活動など(5%)
- ③講義のまとめレポート(50%)講義の中での積極的な姿勢や学んだことを生かし、子どもを見つめたレポートになっているか、などに注目する。

■ ■ 履修条件

■ ■ 授業計画

- 第1回：学習導要領、特別活動の目標とめざす子ども像
- 第2回：特別活動の位置づけと各教科との関連
- 第3回：学級活動の特質と実践事例
- 第4回：クラブ活動の特質と実践事例
- 第5回：児童会活動の特質と実践事例
- 第6回：特別活動の取り組みの意義と原案などの指導法
- 第7回：発達障がいの子どもの理解と学級の合意形成の実践
- 第8回：教育課程における特別活動と沖縄県の小学校と中学校の連携
- 第9回：いじめへの対応と子ども理解
- 第10回：学校行事と家庭・地域との実践事例
- 第11回：学級集団の取り組みの指導と評価
- 第12回：意思決定につながる表現の指導の実践事例
- 第13回：トラブルの事例と集団指導の意義、保護者理解。学級通信。
- 第14回：家庭や地域、関係諸機関との連携・協働
- 第15回：感動的な学年終わりの会と特別活動の目標

定期試験は実施しない。

■ ■ 事前学習

- 次に指定する文献をあらかじめ購読すること。
- いじめのある世界に生きる君たちへ （中井久夫著 中央公論社）
- いじめの構造 （内藤朝雄 講談社現代新書）
- 子どもの願い （丹野清彦 高文研）

■ ■ 事後学習

- 授業のあとにレポートを提出してもらいます。その際、次の図書を参考にすること
- 次に指定する文献をあらかじめ購読すること。
- いじめのある世界に生きる君たちへ （中井久夫著 中央公論社）
- いじめの構造 （内藤朝雄 講談社現代新書）
- 子どもの願い （丹野清彦 高文研）

■ ■ 教科書にかかわる情報

教科書	書名	子どもの願い いじめvs12の哲学			ISBN		備考	最初の講義でお渡しします
	著者名	丹野清彦						
	出版社	高文研	出版年	2018	NCID			

■ ■ 教科書全体備考

■ ■ 参考書にかかわる情報

平成31（令和元）年度 地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組
申請書

部局等：教職センター

取組名	離島・へき地と近接地域における幼児期から思春期までの「学校の不適応」の子どもへのトータルな地域協働支援	配分額	100千円			
取組の区分	新規申請					
対象科目名	障がい者の教育実践と地域発達支援Ⅰ					
科目の区分	組織	受講年次	教育種別	講義形態	必修選択	開講学期
	学部	1年次～4年次	専門教育	講義 演習	自由選択	前学期
取組の実施概要・特色	①本取組では障害児、不登校児、非行児等の支援を必要とする多様な子どもたちを対象とする「学校における不適応」に関する地域課題を解決するトータルな地域協働支援や教育を実行できる能力を見つけることを目指している。さらに本取組を通して障害児、不登校児、非行児の発達段階を踏まえた「学校への不適応」の解決を図るための教育支援への理解と実践力を有する人材を養う取組である。特に幼児期から学童期までの子どもたち、および思春期から青年期までの子どもたちを対象にしている。 ②4月に「障がい者の教育実践と地域発達支援Ⅰ」の授業科目を約15人の学生を対象に開講し、最初の3回は学生への講義や取組や離島・へき地における支援・教育の取組のオリエンテーションを行う。支援教室で行う支援企画のモデルを施行的に学生と実施して体験的に取組のイメージをもち、具体的な子どもたちへの今までの取組の情報を提供する。近隣地域の子どもを集めて月2回「集団支援活動」を開催する。 ③4月～8月には近隣地域との協働による幼児期から思春期までの子どもを対象にした実践、多様な領域の専門家の配置・様々な業務の分担や専門機関との連携への理解を深め地域の学校現場に出向いて支援を行う。地域のモデル校として宜野湾市、石垣市の指定校での支援プログラム開発と大学の実践教育が連動することに特色がある。 ④八重山地域の教育的課題を抱えた中学校をモデル校として選定する。また課題解決の方策として早期の幼児期の「遊び」を活用した支援の視点から取組のヒントを見つけ保・幼・小・中・高の幼児期から青年期までの切れ目のない取組を充実させる。その際、大学で学生が実践したり、討論してきた支援企画やそのアイデア等も参考にする。また、学生は学校での授業実践の子どもたちの支援補助として参加する。 ⑤6月～9月にかけて大学で検討した支援企画や教材・教具を用いて、離島・へき地または近隣地域の子どもたちへの出前支援教室を開催する。八重山教育事務所、島尻教育事務所、中頭教育事務所、宮古福祉事務所等の地域の学校教育機関との協働により実践およびその教育研修を行う。					
取組の効果 (地域課題解決・教育効果)	①離島・へき地の抱える現実として本島から5年目の若い教員が赴任する確率が高く、さらに地域の専門家の人材不足から支援・教育を行う教員の専門的な実践研修の機会が少ない。特にその傾向は八重山地域では顕著に表れている。特に離島・へき地における思春期的な課題は高校への進学や将来の就労等の地域社会の課題に大きな影響を与える。その重要な時期に生じる子どもたちの多様な教育の問題に向き合い考えていくことは地域を支援し地域で活躍する人材を育成する成果としては大きい。					

	②教職センター（発達支援教育実践室）を拠点にした「集団支援教室」に学生が参加し、実際に担当する子どもとの関わりを通して地域の子どもたちの育ちと学びの理解を深めることが可能である。また近隣地域の多様な学校種において支援企画を実践することができる。幼児期から思春期までの切れ目のない支援教育の理解を深めることができる。「集団支援教室」等の地域支援プログラムにおいて学生が参加し地域課題を解決する力を向上させることができる。地域に関心を示し実際に支援を行い積極的に課題解決について考える力を向上させ地域に貢献できる人材を育成する。 ③「集団支援教室」では近隣地域の支援を必要な子どもたちと定期的に関わる学生が「遊び」を中心とした支援企画を作成し実践を行う。そして子どもたちの行動記録を取り整理することを通して地域の子どもの育ちと学びに触れることが可能である。 各地域で「集団支援教室」を開催することにより、各地域の個性のある多様な子どもたちに出会うことができる。地域における歴史的文化的土壌で生活する子どもたちの地域性を背景にした養育環境やその実態の把握が可能となる。また「学校の不適応 貧困家庭、貧富の差、ひとり親家庭等、厳しい家庭環境に基づく地域の課題等を解決する糸口となる地域の実状を捉え「幼児期から青年期までの切れ目の支援」の在り方を分析、検証することで学生の地域理解と教育支援の実践力を高めることができる。			
実施担当者 （代表者に※を 付すこと）	氏 名		所属職名 （役職名）	担 当 分 担
	※浦崎 武 上地 完治		大学院教育学研究科 ・教職センター併任 （教授） 教職センター長 （教授）	事業の実施・取組の実践指導・助 言 事業の実施・本取組の総括
経 費	事 項	予 定 額 （千円）	積算内訳	備 考
	旅 費	91.2	旅費（20,000円＋10,400円）×大学スタッフ ・講師 1 人× 3 回（または 2 人× 1 回および 1 人× 1 回）＝91,200円	八重山また は宮古へ出 張
	教材費	8.8	8,800円	
スケジュール	4 月～ 9 月「障がい者の教育実践と地域発達支援Ⅰ」科目の開講のため自治体との調 整、学生および現職教員、特別研究員等の講師によるセンターを拠点とする近隣に おける定期「集団支援教室」の開催と実践の検証 4 月～ 9 月 中頭地域、八重山地域、宮古地域、島尻地域等の近隣地域の特別支援学 級等の近隣地域への「集団支援教室」の開催と各地域調査 4 月～ 9 月 学生、学校や支援施設の講師の派遣による八重山地域、宮古地域、島尻 地域の教育事務所、福祉事務所等離島・へき地における「集団支援教室」の定期開 催、 7 月 学生、学校や支援施設の講師の派遣による「日帰りキャンプ」の開催 8 月～ 9 月 報告書のとりまとめ			

※全体で2枚以内にまとめること

科目番号			
教共117			
開講年度	開講学期	曜日時限	開講学部等
2019	前学期	水4	教育学部
講義コード	科目名[英文名]	単位数	
306256001	障がい者の教育実践と地域発達支援Ⅰ	2	
担当教員[ローマ字表記]			
浦崎 武			

授業の形態

アクティブラーニング

授業内容と方法

附属センターにおいて現職教員・多様な領域の職員等のセンター特別研究員やセンター技術補佐員と協働により障がい者との関わりの基礎や支援企画案・指導案の作成や実践、障がい者の親や家族への支援等を学びつつ、特別研究員の所属する地域の公立小学校・中学校の特別支援学級、通級指導教室との連携を通して、障がい者の理解と支援、通常の学級と特別支援学級や特別支援学校との合同授業や交流学習の協働支援や、センターで実施する支援教室を通して教育実践、発達支援を学ぶ。また、特別支援以外の専修で障がい者のテーマで卒論を書きたい等、障がい者の理解と支援教育に関心のある学生のために附属センターに通う障がい者と触れ合ったり、関わったりする「場」を提供したり、地域の小学校や中学校の特別支援学級等、実践に関わる「場」を提供し、障がい者の理解と地域に根差した発達支援のあり方を深める。

URGCC学習教育目標

自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、問題解決力、専門性

達成目標

1. 障がい者との関係性、支援者や多職種の専門家等との協働によるチーム支援の必要性を理解し、複数の担当者と協働し、子どもたちの実態を把握し、計画し、教育実践、発達支援するための意義を理解できる。
2. 障がいのある子どもたちへの教育実践と地域の発達支援を行うための基礎知識を理解できる。
3. 発達の視点により支援教育のあり方を判断する教育・支援力の基礎を身につけることができる。
4. 障がいのある子どもたちの支援の企画を立案、実践、検証することができる。
5. 障がいのある子どもたちとの関わりの情報の整理、考察し、遊びや創作活動を通した触れ合いから、教育現場や発達支援の場で必要とされる支援教育を創造する実践力の基礎を身につけることができる。
6. 地域の障害のある子どもたちとの実際の関わりを通して、子どもたちの実態を捉え、地域に根差した支援の在り方を理解できる。

評価基準と評価方法

1. 障がい者の理解と実際の関わりの姿勢 20%（意欲の評価）
2. 障害がい者についての理解と支援へのディスカッションへの参加 20%（関心の評価）
3. 離島・へき地、近隣地域の支援活動記録の記述の活用、地域との協働による障がい者への理解と実践の検討、今後の支援に役立つ情報の整理 20%（障がい者との関わりの検討、今後の情報整理の評価）
4. 離島・へき地と近隣の地域の障がい者との支援記録を整理し経過を振り返り、地域の子どもの支援のニーズと支援の在り方について、最終レポート 40%（支援記録の整理と実践力の評価）

履修条件

発達障害のある子どもたちへの地域支援教育に関心をもち、積極的に履修すること

■ 授業計画

第1回：障がい者の理解と関わりの在り方について考える

第2回：障がい者の特性と教育実践と発達支援について考える

第3回：障がい者の特性と体験活動を通して障がいのある子どもとの関与観察、基礎的な教育実践を行うためのセンターの現職の特別研究員と事例検討によるフィード

バックをする（支援教室①）

第4回：障がい者との関係性を育むための実践とセンター現職特別研究員との支援教室と事例検討によるフィードバック（支援教室②）

第5回：地域の障がい者への理解と発達支援に関するオリエンテーション、行動記録の書き方、支援教室①、②の振り返りによる子どもとの信頼関係の作り方について

ディスカッション

第6回：障がい者の特性に応じた子どもとの関係性を活かすための体験活動の実践（支援教室③）

第7回：支援教室③の振り返りと障がいのある子どもたちとの遊びを通じた発達支援の意義についてディスカッション

第8回：障がいのある子どもたちとの多様な遊びのなかの発達の要素を大切に体験活動の実践（支援教室④）

第9回：地域の特性と「支援教室」の取組みについてのオリエンテーション②、参加している子どもたちの遊びの様子（映像）を通して地域における支援についての説

明とディスカッション

第10回：障がい者への支援企画の制作の説明、離島・地域における障がいのある子どもたちへの発達支援体制のあり方についてのディスカッション（地域における支援

教室⑤）

第11回：支援企画の制作の説明、離島・地域における障がいのある子どもたちへの発達支援体制のあり方についてのディスカッション（地域における支援教室⑥）

第12回：地域における課題とその解決に関する討論、支援体制の整備と実践力を高めていくための方策の検討、障害のある子どもたちへの支援企画の意義と支援プロ

グラムについてのディスカッション

第13回：野外における遊びを通じた集団支援の企画の作成について担当グループごとのディスカッション（子どもたちの理解と支援企画の検討）、子どもたちへの支援

企画の制作、実践、フィードバック、事例検討によるディスカッション（支援教室⑦）

第14回：野外における障がいのある子どもたちへの支援企画の実践、検証、ディスカッション（地域における日帰りキャンプ）

第15回：まとめ：－地域で活躍できる人材として身に着けるべき教育への実践力、発達支援に参加して地域の現状課題の把握、地域で育つ子どもたちの実態把握および

地域に根差した支援についてどのように考え、向き合うかについてのディスカッション

■ 事前学習

離島・へき地への多様な障害のある子どもたち、支援の必要な子どもたちについて関心をもって自ら理解を深める努力をする。

■ 事後学習

実際に子どもたちとの関わりを記録に残して、学んだことを確認し、支援教育のあり方について確認する。

■ 教科書にかかわる情報

■ 教科書全体備考

必要に応じて資料を配布する

■ 参考書にかかわる情報

■ 参考書全体備考

必要に応じて資料を配布する

■ 使用言語

日本語

平成31（令和元）年度 地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組
申請書

部局等： 理学部

取組名	脆弱な島嶼生態系の保全と利用に関する体験学習 ー世界自然遺産候補地の西表島の現状把握と西表島が抱える課題の解決を目指すー			配分額	100 千円	
取組の区分	新規申請 / 継続申請					
対象科目名	生物学野外実習					
科目の区分 (あてはまるものを選択又は記入)	組織 学部 大学院	受講年次 年次	教育種別 共通教育 専門教育	講義形態 講義 演習 実験 実習 実技	必修選択 必修 選択必修 自由選択	開講学期 前学期 後学期
取組の実施概要・特色	海洋自然科学科生物系では、琉球大学創設以来西表島で生物系の学生を対象とした専門教育科目「生物学野外実習」を実施してきた。西表島では近年の外来種の侵入による生態系の攪乱や競合、世界自然遺産候補地としての推薦、国立公園と森林生態系保護地域の拡大、竹富町自然環境保護条例の改正など、西表島の生物相と生態系の状況と社会情勢は急変しつつある。西表島の動植物に野外で接し、生物相と生態系の特色を学び、それらの保全に関する課題を見つけ、対策について考えるこの実習は、琉球大学の特色とこれまでの伝統を活かしたものである。実習の担当者の数名は、世界自然遺産候補地の科学委員会、西表島森林生態系保護地域保全管理委員会、竹富町自然保護審議会などの委員を務めており、最新の正確な情報に基づく学習と討論が期待できる。					
取組の効果 (地域課題解決・教育効果)	西表島の生物相と生態系に関する専門的知識や問題解決能力が深まるばかりでなく、実習を通して野外調査を行う上で必要な知識や地域住民との協調性を体得し、ゴミ処理問題などの離島の課題について体験することができる。					
実施担当者 (代表者に※を付すこと)	氏 名	所属職名 (役職名)		担 当 分 担		
	横田昌嗣※ 立原一憲 伊澤雅子 傳田哲郎 徳田岳 成瀬貫 戸田守	理・海自・教授 理・海自・教授 理・海自・教授 理・海自・教授 熱生研・分生研・教授 熱生研・西表・准教授 熱生研・西原・准教授		世話人、維管束植物 魚類 哺乳類、鳥類 維管束植物 シロアリ 甲殻類 両生類、爬虫類		
経費	事項	予定額 (千円)	積算内訳		備 考	

	備 船 料 レンタカー (ガソリン 代含)	58 42	18千円 (浦内川)、40千円 (網取ウダラ川) 7千円×6日	レンタカーは、 参加者 (学生、 教員)、調査道 具、弁当、緊急 時の病人の運搬 などに用いる。
スケジュール	登録調整期間に予備登録を行い、実習に対する受講者自身の目標について事前のレポートを提出させ、その内容に基づいて登録の可否を決めた。登録直後から数回の打ち合わせを行い、グループ分けと役割分担を決め、実習時に使用する遊覧船やバスの予約、実習時に使用する機材の運搬、実習時に使用する実習書の原稿作成と実習書の印刷製本などを受講者に課す。実習自体は7月3日(水)～7月8日(月)に西表島で実施する。実習後に、実習中に観察した事柄をもとにして複数のテーマについてレポートを作成してもらう。			

※全体で2枚以内にまとめること

補足説明

新規性及び改善性

西表島において生物相や生態系について野外で学ぶことはこれまでの実習と同じであるが、世界自然遺産科学委員会の委員である横田と伊澤は今年10月にIUCNの世界自然遺産候補地の視察の際に西表島の学術的価値についてIUCNの担当者に野外および室内で説明することが予定されており(立原・戸田・成瀬は委員ではないが、野外での説明を担当することで現在調整中)、世界自然遺産候補地としての科学的価値、昨年5月にIUCNから推薦の延期勧告を受けた理由や背景、その後の対応策の内容と実施内容などについて、これらの世界自然遺産推薦に直接関わる者として現地で西表島の自然を守る上で解決が必要とされる課題について説明を加え、学生の理解を深めると共に、課題の解決について自らの意見を持たせる。

今年度は例年と比べると受講者数が4名と少ないので、大人数では踏査が難しい場所や自然観察方法を選んで実習を行う。既にエコツアーによってオーバーユースになっている場所と、全く立入がない健全な場所の両方を訪れて比較を行い、観光利用のバランスについて考えさせる。

IUCNに提出された「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の推薦書と付属資料

<http://www.env.go.jp/press/106449.html>

「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産候補地科学委員会」の委員名簿と活動内容

http://kyushu.env.go.jp/naha/nature/mat/m_5.html

科目番号			
海生200			
開講年度	開講学期	曜日時限	開講学部等
2019	前学期	集中	理学部海洋自然科学科
講義コード	科目名[英文名]	単位数	
401194001	生物学野外実習	2	
担当教員[ローマ字表記]			
横田 昌嗣, 立原 一憲, 伊澤 雅子, 傳田 哲郎, 徳田 岳, 久保田 康裕, 成瀬 貴, 戸田 守			

授業の形態

実習

アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ、学生が文献や資料を調べる

授業内容と方法

沖縄県は豊かな生態系と生物多様性を持つことで知られ、世界自然遺産の候補地となっているが、脆弱な島嶼という環境のため近年の著しい自然環境の改変によって特色ある生態系と豊かな生物多様性が失われようとしている。世界自然遺産の候補地である西表島において、生物学の研究対象や専門分野が異なる8名の教員が担当する動植物の野外観察と夜間の講義・実習・討論を通して、地域の生物多様性保全に関わる諸問題（希少種や生態系の保全、外来種、国立公園・世界遺産指定など）に関して、学生の専門性と問題解決能力を養う。西表島で実習を行う前に、西表島の自然環境、生物相・生態系、野外観察をする上での注意点などについて、受講者に資料を作成してもらい、野外観察時に使用する。野外観察に際し、備船や観光バスの予約などの交渉を受講者に担当してもらい、野外調査を実施するための知識を習得してもらう。生物学に関する専門的知識の他、宿泊施設使用時に離島におけるゴミ処理問題について現状を知り、対応できる社会性を養う。

URGCC学習教育目標

自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力、専門性

達成目標

1. 西表島の生物相の特徴を知り、琉球列島の他の島嶼との類似点と相違点を認識することができる。〔専門性〕
2. 西表島の生態系・自然環境が持つ脆弱性と保全上の問題点について理解し、保全対策について自身の考えを的確に述べるができる。〔専門性、問題解決力、コミュニケーション・スキル〕
3. 西表島の生物相や生態系について、事前に収集し学習した内容を資料として、実習中に観察した内容をレポートとしてまとめることができる。〔情報リテラシー、専門性〕
4. 拝所や御嶽林などでの野外観察に際し、地域住民に配慮し、協調した行動を取ることができる。〔社会性、地域・国際性〕
5. 実習の計画の立案、公共交通機関の事業者との交渉、グループでの行動、宿泊施設の使用とゴミ処理について理解し、野外調査を行う上での様々な問題について対応できる。〔社会性、地域・国際性、自立性、問題解決力〕

評価基準と評価方法

西表島での実習の前に行う打ち合わせで割り当てられた役割が実習を実施する上で支障なく実行されているかどうか、実習前に作成する資料の内容、打ち合わせの出席状況、西表島での実習時の取り組み、実習後に提出するレポートの内容を総合的に評価する。

履修条件

生物学I、生物学II、生物学実験を先修すること。必ず学生教育研究傷害保険に加入していること。未加入の場合は、登録を受け付けない。学期初めに説明会を実施して予備登録を行い、事前のレポートを課す。そのレポートの内容で登録の可否について審査する。説明会に欠席したり、事前のレポートを提出しなかった者の登録は認めないので、説明会開催の掲示には注意すること。

授業計画

昼間は西表島の山地、海岸、御嶽、マングローブ、海浜、干潟、礁湖、溪流などで動植物（維管束植物、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、魚類、甲殻類、昆虫類など）を観察し、植物標本採集やスケッチ、植生調査などを行う。没後は、動植物の生態に関する講義、標本作製の他、夜

行性の動物の観察を行う。なお、実習前に数回の打ち合わせ、グループ分けと役割分担、実習時に使用する実習書の作成、実習のための講義などを行う。担当教員は以下の8名が予定されている。横田昌嗣（世話人）、傳田哲郎、伊澤雅子、立原一憲、徳田岳、久保田康裕、戸田守、成瀬貴、他。西表島での宿泊は、琉球大学熱帯生物圏研究センター西表研究施設を用いる予定。実習は7月3日（水）～7月8日（月）に実施する予定（変更の可能性あり）。

事前学習

事前に実習時に使用する実習書の原稿を作成してもらう。

事後学習

実習中に観察した内容をもとに実習後にレポートを作成してもらう。

教科書にかかわる情報

教科書	書名	受講者自身に作成してもらう実習書を利用する。			ISBN		備考	
	著者名							
	出版社		出版年		NCID			
教科書	書名	その他は、実習の準備期間中に随時紹介する。			ISBN		備考	
	著者名							
	出版社		出版年		NCID			
教科書	書名	土屋誠（編）．2013．美ら島の生物ウォッチング100．東海大学出版会．			ISBN	448602009X	備考	
	著者名							
	出版社		出版年		NCID			

教科書全体備考

参考書にかかわる情報

参考書全体備考

使用言語

日本語

メッセージ

実習で訪れる場所や内容にもよるが、交通費、宿泊費、食費などで5万円程度の個人負担が必要になる。
登録希望者は、登録前の説明会を4月11日（木）12：10に理学部B棟427室で行うので、必ず出席すること。やむを得ない理由で出席できない場合は、事前に世話人にメールなどで連絡すること。なお、欠席者（事前連絡者を除く）の登録は、一切認めない。

オフィスアワー

随時（事前にメールで世話人と相談してください）。理学部B棟432室。

メールアドレス

yokota@sci.u-ryukyu.ac.jp（横田昌嗣）

URL

平成31(令和元)年度 地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組
申請書

部局等：理学部

取組名	失われつつある地域の伝統漁業・漁法および資源管理にかかわる実習取り組み		配分額	70千円		
取組の区分	新規申請					
対象科目名	進化生態学実習Ⅷ					
科目の区分 (あてはまるものを選択又は記入)	組織	受講年次	教育種別	講義形態	必修選択	開講学期
	学部	2～4年次	専門教育	実習	選択必修	前学期
取組の実施概要・特色	授業において設定している地域課題と、その課題を授業でどのように扱うか記述して下さい。 ①本取り組みでは、沖縄で失われつつある伝統漁法の一つである「追い込み漁」に着目し、その重要性の再評価と、サンゴ礁域での該当漁法の存在意義の理解、を目的として、実際に追い込み漁をおこなってきた地元漁師の漁船を傭船し、実地での追い込み漁指導・追い込み漁体験を実施する。 ②8月中旬に進化生態学実習Ⅷの実習メニューの一つとして約30名の学生を対象に実施する。 ③これまでのサンゴ礁域での徒歩もしくはスノーケルによる底生生物調査メニューに加え、実体験を通じた地元の伝統漁法についての理解、実施方法の習得、その生態学的な特色・意義の理解を目標とした実習内容の改善に還元させる。					
取組の効果 (地域課題解決・教育効果)	新たに経費を使用して実施する内容と教育的効果について、新規性・必要性がわかるように記述して下さい。 ①新たに地元漁業者から漁船を傭船し、サンゴ礁域における伝統的漁法の一つである「追い込み漁」の実地での説明・実施をおこなうことで、受講学生は地元の漁業者の漁業に対する考え方を直に学ぶことができる。 ②受講生らに、失われつつある沖縄の伝統的漁法について興味を持つきっかけを提供できる。 ③受講生らは、追い込み漁体験を通して、複雑な海底地形を有するサンゴ礁域での特有の漁法について体感したうえで理解し、サンゴ礁生物の特性に応じた漁法について多面的に理解することが可能となる。					
実施担当者 (代表者に※を付すこと)	氏名	所属職名 (役職名)		担当分担		
	※中村 崇	准教授		実習の開講・調整		

経費	事項	予定額 (千円)	積算内訳	備 考
	傭船費	70千円	追い込み漁 (35千円/半日) サンゴ礁観察 (35千円/半日)	漁協の許可を得て実施する
スケジュール	5月 科目実施期間中の傭船について本部町在住の漁師との調整 8月1中旬「進化生態学実習Ⅷ」を開講 8月13日 追い込み漁 (半日) 8月15日 サンゴ礁観察 (半日) 8月下旬 報告書とりまとめ			

※全体で2枚以内にまとめること

科目番号			
海生210			
開講年度	開講学期	曜日時限	開講学部等
2019	前学期	集中	理学部海洋自然科学科
講義コード	科目名[英文名]		単位数
401131001	進化生態学実習Ⅷ		1
担当教員[ローマ字表記]			
中村 崇			

授業の形態

実習、TA有り

アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ、学生が文献や資料を調べる

授業内容と方法

夏休み中に瀬底研究施設（本部町）で集中開講予定。

・造礁サンゴを主な対象とした、分類、生活史、および生態に関する基礎知識・研究法を理解するための座学の講義と、グループに分かれてのサンゴ礁での野外調査結果に基づいた分析と発表などを学ぶ。

URGCC学習教育目標

地域・国際性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力、専門性

達成目標

- ・担当教員と学生、学生間の対話を重視しながら実施する〔コミュニケーションスキル〕
- ・実習を通して、サンゴ礁地域およびサンゴ礁の底生生物の理解と、調査方法の習得を目標とする〔地域国際性・専門性〕
- ・グループ課題の立案及び、解決に向けた調査法選定・情報収集およびプレゼンテーション能力の習得を目指す〔問題解決力・情報リテラシー〕

評価基準と評価方法

- ・遅刻は厳禁（実習は参加が基本であり、理由の如何に関わらず「欠席」は不可となるので注意すること）。
- ・最終日にグループ発表コンペを行い、後日レポートを作成・提出してもらう。
- ・参加姿勢、記述式テスト、グループ発表内容および・レポートの完成度（データの整理、解析、考察、作文）を総合し判定する。（出来具合によっては改善点を指摘し、作り直したレポートを再提出させる場合もある）

履修条件

- ・海洋自然科学科生物系2年次以上を対象とする。
- ・ガイダンスに出席すること（掲示案内により4月中に実習に関するガイダンスを行う。履修希望者多数の場合はガイダンス中に抽選を行う場合がある）。
- ・先51生物学I、先52生物学II、先53生物学実験を先修のこと。

授業計画

注1）宿泊及びクリーニング代等で3000円程度。

注2）実習期間中の食事は各自でとること（自炊はできません）。

- ・造礁サンゴの基礎知識（生活史・生態などのトピック）
- ・造礁サンゴ（骨格）の外部形態観察と分類
- ・沖縄で見られる代表的な造礁サンゴの同定
- ・筆記テスト（初日の座学の内容に関する基礎テスト）

＜以降は4～5名1組のチーム編成後に行う＞

- ・コドラート調査法の解説と実践（室内）
- ・トランセクト調査法の解説と実践（室内）
- ・室内での練習
- ・その他の調査法についての解説
- ・翌日の調査テーマの決定と段取り調整

- ・調査テーマの決定と準備
- ・野外での調査（瀬底実験施設前もしくは備瀬崎を予定、天候により調整）の実施
- ・各チームで磯歩きでのコドラート調査もしくはトランセクトラインによる、サンゴ礁の底生生物群集の調査を予定している
- ・得られたデータの解析をもとに発表の準備

- ・グループ単位での発表と全体ディスカッション
- ・レポートの作成・提出（期日は追って連絡する）

■ ■ 事前学習

各自必要に応じておこなうこと
資料は初日に配布予定

■ ■ 事後学習

実習のレポート提出を課題としているため、実習後に必要な文献調査等をおこない、レポートを完成されること。

■ ■ 教科書にかかわる情報

■ ■ 教科書全体備考

■ ■ 参考書にかかわる情報

■ ■ 参考書全体備考

■ ■ 使用言語

日本語

■ ■ メッセージ

- ・本部町の瀬底実験施設にて開催予定
- ・集中で実施
- ・日程詳細は、ガイダンス時に相談の上決定する。
- ・磯歩きができる装備（マリンブーツなど）スノーケル用具（ライフジャケットは実験施設にてレンタル予定）、ケント紙10枚と鉛筆などのスケッチ用具を各自で準備すること。
- ・瀬底実験施設まで各自の移動手段があることが望ましい。
- ・海での調査実習は危険を伴うので、ガイダンスに参加しなかったり、ルールを無視する学生については履修をお断りする。

■ ■ オフィスアワー

随時おこなう、ただし、不在の場合もあるため、メールでのアポイントでおこなうことが望ましい（【件名】を「進化生態学実習オフィスアワー＜希望者の氏名＞」として事前にメールでお知らせください）

■ ■ メールアドレス

**令和 元年度 地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組
申請書**

部局等：医学教育企画室

取組名	沖縄県の地域医療における各種療養型医療施設等の現状を理解し、問題を見出し解決し改善できる医師の育成に向けた取組			配分額	100千円	
取組の区分	継続申請					
対象科目名	体験学習（国立療養所 愛楽園見学、療養型入所施設見学実習）					
科目の区分 (あてはまるものを選択又は記入)	組織	受講年次	教育種別	講義形態	必修選択	開講学期
	医学部	2年次	専門教育	実習	必修	後学期
取組の実施概要・特色	授業において設定している地域課題と、その課題を授業でどのように扱うか記述して下さい。 対象科目名は「体験学習（国立療養所 愛楽園見学）」であり、医学・医療に新鮮な興味を抱いている低学年（2年次）を対象に、早期体験学習の一環として行う。 【国立療養所 沖縄愛楽園 訪問見学実習】 ① 「国立療養所沖縄愛楽園」は、全国に13施設、沖縄県内に2施設ある国立ハンセン病療養所の一つである。本学では、人権問題等、歴史的にも深い様々な問題があるハンセン病に関し、身近な問題として医学生として理解を深め、将来の医師としての診療姿勢に役立てることを目標として、平成29年度より訪問させて頂いている。本実習は、沖縄愛楽園が沖縄本島北部地域に存在することから地域医療に関しても学ぶ良い機会となっている。学生には、沖縄県の離島へき地医療の実態を体験し関心を高めるとともに、地域医療の重要性を実感してもらう。さらに、将来の地域医療を担う医療人の育成にも役立てる。なお、見学前学習として、本学内で、野村謙愛楽園園長にハンセン病や施設に関して講義をして頂く予定である。そして「プレアンケート」「見学レポート」「ポストアンケート」をWeb-classにて提出させる。今回はこれらの学習成果を、eポートフォリオとして蓄積し、本実習の改善に役立てる予定である。					
取組の効果 (地域課題解決・教育効果)	新たに経費を使用して実施する内容と教育的効果について、新規性・必要性がわかるように記述して下さい。 ① 「体験学習（国立療養所 沖縄愛楽園見学）」を実施することにより、医学生が沖縄県の地域医療の実態を体験し関心を高めるとともに、地域医療の重要性を実感することが期待できる。 ② 将来の地域医療を担う医師の育成に役立つものと期待される。 ③ 現状と今後の地域医療の課題を学び理解する機会を得ることができる。 ④ 自発的・積極的な行動を促し、問題解決能力およびコミュニケーションスキルを向上させることが期待できる。 ⑤ 低学年から、医学・医療を常に深く考え、学ぶ姿勢を形成する機会となる。					

実施担当者 (代表者に※を 付すこと)	氏 名		所属職名 (役職名)	担 当 分 担	
	※ 山本 秀幸 屋良さとみ 名嘉地めぐみ		教授 准教授 講師	統括、指導 実施担当・とりまとめ 実施担当・とりまとめ	
経 費	事 項	予 定 額 (千円)	積 算 内 訳		備 考
	バス代	100	2年次学生の訪問のためのバス代 194.4千円のうち100千円 (1台 64,800円×3台分)		
スケジュール	令和元年 6-9 月：「体験学習（国立療養所 愛楽園見学）」の実施のための細かな 日程・実習内容の調整 令和元年 10 月：事前講演会を実施 令和元年 10 月 16 日：「国立療養所 愛楽園見学」を実施 令和元年11 月：実習レポート、eポートフォリオのとりまとめ				

※全体で2枚以内にまとめること

講義名	体験学習 [療養型施設訪問見学実習]		
科目番号		履修年度	2018 年度
開設学部等	医学部	期間	前期
曜日時限	平成 30 年 9 月 19 日(水)	単位数	
担当教員	山本 秀幸、屋良さとみ、名嘉地めぐみ	講義コード	

■授業内容と方法

①早期体験学習の一環として、県下の老人病院、老人保健施設や特別養護老人ホーム等の療養型診療施設、整肢養護施設等を見学させて頂き、急性期病院ではない施設の患者さんやそのご家族、職員の方々と接することにより、療養型施設やその入院・入所患者さんの現状(寝たきり、車椅子使用の患者さんの多い現状)等を学び、今後多く関わっていく急性期病院では学べない日本の医療・社会の現状を医師になる前に知ることにより、予防医学への関心も高め、良医になるためのモチベーションを維持し、より高めていくことを目的とする。

②沖縄愛楽園訪問見学実習

平成 29 年度より、全国に 13 施設ある国立ハンセン病療養所(沖縄県内 2 施設)の一つであり、本島北部に在る「国立療養所沖縄愛楽園」にも訪問させて頂き、人権問題はじめ歴史的にも様々な深い問題のあったハンセン病に関し、身近な問題として医学生として理解を深め、将来の医師としての診療姿勢に役立てることを目標とする。また沖縄愛楽園が沖縄本島北部地域に存在することと地域医療との関わりに関しても学ぶ。学生が沖縄県の離島へき地医療の一実態を体験し、関心を高めるとともに地域医療の重要性を実感してもらう。長期的には、将来の地域医療を担う医療人の育成も目指す。なお、見学前学習として、本学で、野村謙愛楽園園長にハンセン病や施設に関して講義をして頂く予定である。また、講義に続いて、医療上の問題点や課題等についての討論も行う。

■達成目標

- ① 医学・医療や福祉に関する一般的な内容を知ることができる。
[U.専門性]『C II.医学知識』
- ②人間や社会の中で医療の果たす役割を説明できる。
[U.社会性]『C I.プロフェッショナリズム・C V.地域医療への貢献』
- ③医師、病院スタッフ、患者さん等多くの方々との関わりの中で、社会人としての規律を守り、プライバシーの尊重に配慮し、良好なコミュニケーションの構築に努めることができる。[U.社会性、コミュニケーションスキル]『C I.プロフェッショナリズム・C IV.コミュニケーション能力』
- ④患者・地域住民の心理・社会的背景を正確に理解し、全人的医療実践の基本を身に付けることができる。[U.社会性、専門性]『C I.プロフェッショナリズム・C III.医療の実践・C V.地域医療への貢献』

- ⑤ 地域医療の中での役割を理解し、積極的な自己学習の基礎・動機付けとなる態度を身に付けることができる。[U.自律性]『C III.医療の実践・C V.地域医療への貢献』
- ⑥ 医学の多面性を知り、医師としての生涯学習への準備とすることができる。
[U.自律性]『C I.プロフェッショナリズム』
- ⑦ 療養型施設やその入院・入所患者さんの現状(寝たきり、車椅子使用の患者さんの多い現状)等を学ぶことができる。[U.社会性]『C V.地域医療への貢献』
- ⑧ 療養型施設に関わる各種問題を解決する考え方を身に付けることができる。
[U.問題解決力]『C IV.コミュニケーション能力・C V.地域医療への貢献』
- ⑨ 沖縄愛楽園やその入所患者さんの現状等を学ぶことができる。
[U.社会性]『C V.地域医療への貢献』
- ⑩ ハンセン病に関わる各種問題を解決する考え方を身に付けることができる。
[U.問題解決力]『C II.医学知識・C III.医療の実践・C V.地域医療への貢献』
- ⑪ ハンセン病に関わる保健・福祉・医療の役割を把握し、相互の連帯に関しての理解を深めることができる。
[U.社会性、地域性]『C III.医療の実践・C V.地域医療への貢献』

■評価基準と評価方法

・実習への出席(50%)(達成目標 ①③⑦⑨)

・実習レポート (50%)(達成目標 ②④⑤⑥⑧⑩⑪)

※体験学習終了後、実習レポートを Web-Class にて提出すること

■レポート様式:A4用紙1枚程度(Word)

■履修条件

医学科 2 年次

■授業計画

場所・日時

[沖縄愛楽園 訪問見学実習]

場所: 国立沖縄愛楽園

日時: 平成 30 年 9 月 19 日(水)

■事前・事後学習

①見学前講義

愛楽園園長による見学前講義とともに、医療上の問題点や課題等についての討論も行う。

②「プレアンケート」「見学レポート」「ポストアンケート」をWeb-classにて提出させ、eポートフォリオとして学生の学習成果を蓄積する。

■メールアドレス

屋良さとみ f 040621@med.u-ryukyu.ac.jp

平成31(令和元)年度 地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組
申請書

部局等： 医学部

取組名	地域自治体の災害問題の解決に貢献する 人材育成に向けた取組	配分額	40千円			
取組の区分	継続申請					
対象科目名	救急・災害援助					
科目の区分 (あてはまるものを選択又は記入)	組織 医学部保健 学科	受講年次 3年次	教育種別 専門教育	講義形態 講義 演習	必修選択 選択必修 自由選択 (取得目標免許 により異なる)	開講学期 前学期
取組の実施概要・特色	①本取組では、地域自治体の災害対策という課題を解決するために、参加型学習を実施することによって「グループのメンバーと協調して意見を交わすことができる社会性」「自身の考えを的確に表現できるコミュニケーション・スキル」といった能力を有した人材の育成を目指す。 ②5月に「自治体の防災対策取組み」の授業科目を開設し、37人の学生を対象に講義を行う。連携自治体の北谷町役場総務部総務課地域安全防災アドバイザーの日本防災士会沖縄県支部防災士松村直子氏を外部講師とし、外国人観光客の災害時の対策をテーマにグループディスカッションを展開する。北谷町は外国人観光客が多い地域であるが、外国人を対象とした災害時避難整備は未着手状態である。町役場議員やホテル関係者および自治会長への働き方をどうするのかを実務経験講師の指導を受けて行う。これは、今回初めての取組である。 ③6月に受講生を対象に本授業について調査を行い、実施における改善内容を把握し、今後の授業の改善に反映させる。					
取組の効果 (地域課題解決・教育効果)	①参加型学習法を実施することで、学生の積極性と社会性および問題解決能力を向上させる。 ②授業実施後の調査により実施における改善点を把握し、次年度の基礎データとして活用する。また、本学における地域再生・活性化の達成に向けた教育方法の取組の改善に反映させる。 ③外国人観光客の災害時の対策をテーマにグループディスカッションを展開することにより、学生が住民の一人として、災害時に外国人住民に積極的に声掛けができる国際性の向上を目指す。これは、今回初めての取組である。					
実施担当者 (代表者に※を付すこと)	氏 名	所属職名 (役職名)	担 当 分 担			
	※小林潤 具志堅美智子	教授 助教	科目運営進行の監督 科目運営の実際			

経費	事項	予定額 (千円)	積算内訳	備 考
	消耗品	40	エプソン環境推進トナーインク $5,400円 \times 4色 = 21,600円$ キヤノンインク $800円 \times 4色 = 3,132円$ キヤノンインク(ブラック) $993円 \times 1 = 993円$ フィットライトテープ $300円 \times 7グループ = 2,100円$ PPC用紙白A4エプソン $530 \times 7グループ = 3,710円$ その他(USB)	授業発表時のインクと用紙等
スケジュール	1月 「救急・災害援助:自治体の取組」科目依頼のため調整 4月 「救急・災害援助」科目開講 6月 「救急・災害援助:自治体の取組」実施後のアンケート調査 7月 報告書とりまとめ			

※全体で2枚以内にまとめること

科目番号			
保 I 340			
開講年度	開講学期	曜日時限	開講学部等
2018	第 3 クォーター	水5	医学部保健学科
講義コード	科目名[英文名]	単位数	
501126002	救急・災害援助	1	
担当教員[ローマ字表記]			
具志堅 美智子, 小林 潤			

授業の形態

講義、演習又は実験

アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する

授業内容と方法

災害や救急時に身近にいるのは一般市民である。本授業はその課題に対応するために、日本赤十字社と連携する形でグループディスカッションや演習を行い、災害や救急における地域の課題を発見し、その解決に向けて地域との連携を行い主体的に行動することができる人材の育成を目指す。また養護教員の必須科目として学校保健における救急の知識を習得する。

URGCC学習教育目標

自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、問題解決力、専門性

達成目標

日本赤十字社が提供する救急法講習による講義と演習を基礎知識と技術として授業前に習得する。さらに講義によって実践行動の根拠となっている理論を確認する。

このことによって理論に基づいた実践の理解とそのスキルを獲得することを目標とする。

災害援助を対話型講義において学び、個々への対応だけでなく地域集団に対応できるスキルを習得し、災害時に援助チームの一員として適切に行動できる保健医療従事者の態度の習得を目指す。

評価基準と評価方法

1. 地域における災害援助や救急援助の初期対応に向けて一般市民との視点から、積極的に提案することができる能力を養う。
2. 自身の考えを的確に表現できる。
3. グループのメンバーと協調して意見を交わすことができる。
4. 救急法と災害援助の基礎知識をテストによって確認する。
5. グループディスカッションや対話型講義における積極性、妥当性、創造性、協調性を加味して評価する。

履修条件

授業開始前に日本赤十字救急法の演習を受けることを履修条件とする。演習および参加型学習においては積極的参加態度を必要とする。

授業計画

第1/2回	9月25-28日	演習：救急法	日本赤十字社沖縄県支部
第3/4回	10月 3日	救命救急法：心肺蘇生法	久木田 一郎（医学科 救急医学講座）
第5/6回	10月10日	救命救急法：看護の初期対応	下地 精子（中頭病院 救急認定看護師）
第7/8回	10月17日	学校における救急	和氣 則江
第9/10回	10月24日	災害援助	小林 潤
第11/12回	10月31日	災害援助の実践	児玉 光也
第13/14回	11月 7日	災害援助：緊急被ばく医療	福島 卓也

第15/16回 11月14日 防災対策：自治体の取り組み 濱比嘉 由美子（うるま市こども健康課）
第17回 11月21日 期末試験 具志堅 美智子

事前学習

教科書や参考書によって事前学習が必要である。

事後学習

講義資料および演習等によって事後学習による知識や技術の確認が必要である。

教科書にかかわる情報

教科書全体備考

救急法基礎講習教本、救急法講習教本 （日本赤十字社編）

参考書にかかわる情報

参考書	書名	プレホスピタルケア・災害看護 救急看護 Question Box 9			ISBN		備考	
	著者名	仲村恵子 他						
	出版社	中山書店	出版年		NCID			

参考書全体備考

プレホスピタルケア・災害看護 （中山書店）

使用言語

日本語

メッセージ

オフィスアワー

水曜日2-5限

メールアドレス

boshi@med.u-ryukyu.ac.jp

URL

平成 3 1 (令和元) 年度 地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組
申請書

部局等： 農学部

取組名	地域に根ざした健康・長寿に貢献する人材育成に向けた取組	配分額	100千円			
取組の区分	新規申請 / 継続申請					
対象科目名						
科目の区分 (あてはまるものを選択又は記入)	組織	受講年次	教育種別	講義形態	必修選択 必修 選択必修 自由選択	開講学期
	学部	2~4 年次	専門教育	講義		令和元年度 前学期
取組の実施概要・特色	①本取組では、地域活性化や人々が健康・長寿であるために、亜熱帯である沖縄地域における食材や長寿食と言われる沖縄の伝統食品などについて、事前調査を行い、実際に調理して食べる、講義においてグループ討論、成果を発表することを通して、地域・国際性、社会性、コミュニケーションスキル、問題解決力といった能力を有した人材の育成を目指す。 ②8月に集中講義として「健康長寿科学」の授業科目を開設し、約 35 人の学生を対象に講義を行う。琉球大の教員ではカバーできない分野を専門とする講師を招いて地域資源や健康・長寿に関するセミナーを行う。 ③受講者各々が各自のアイディアに基づき、沖縄の食材を選び、その含有成分や健康長寿に与える影響について調査し、どのような人に食べてもらうのかターゲットを決めた上で健康長寿に有効なレシピについてプレゼンを行う。 本取り組みの予算でこれまで招聘した講師には、専門の話に加えてキャリア形成の話盛り込んでいただいている。受講者には講義の最後に実施するテスト及びレポートにおいて、毎年、感想を書いてもらっているが、外部講師の話に感銘を受けたことと、自分で沖縄の食材について調べて発表したことで、沖縄の食材について理解が進み良い経験になったことを記述する学生が非常に多く、本講義は好評を得ているため、人材育成に一定の効果が上がっていると判断している。従って、より効果を上げるためにはよりレベルの高い講師を招聘して話をさせていただくことや、グループ討論の質を向上させることが必要であると考えている。昨年度は、沖縄県の食品関係のプロジェクトの評価委員であり、食品と妊娠に関する著名な先生と。過去に将来、世界をリードすることが期待される潜在的可能性を持った研究者に対する研究支援を目的とした「最先端・次世代研究開発支援プログラム」に採択された経歴をもち、よくテレビに出ている運動と健康に関する著名な先生に来ていただき、最先端のハイレベルの研究について話していただき、非常に好評を得たため、本年も両先生に来ていただくことになっている。講師の招聘については、非常に好評であるため、次年度以降に予算措置がなくなれば人数を減らしてでも自費で招聘することを考えている。 本講義は「健康栄養化学コース」に所属する学生に対しては必修科目として実施される					

	が、この学生は日本で唯一農学部(理系)出身の栄養士として将来の活躍が期待される貴重な人材であることから、他大学の栄養士養成コースとは差別化できる理系としてのセンスを高めるためにこうした取り組みが必須であると考えている。					
取組の効果 (地域課題解決・教育効果)	①調査、発表、グループ討論を実施することで、学生の調べる力、コミュニケーションスキル、社会性を向上させる。 ②①を通し、沖縄の食材や伝統食品などについて正確な知識が身につく。特に健康栄養化学コースの学生は、日本で唯一の農学部出身の栄養士として将来活躍が期待される学生であるが、本講義におけるアクティブラーニングによって、理系のセンスを身につけることが可能である。 ③グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、自分の考えを的確に表現する能力を向上させる。 これまでの講義後の感想から着実に効果が上がっていることが伺える。					
実施担当者 (代表者に※を付すこと)	氏 名		所属職名 (役職名)	担 当 分 担		
	金子 哲※		教授	講義, 調査, グループディスカッション, プレゼン指導, 講師の選定と招聘		
経 費	事項	予定額 (千円)	積算内訳			
	旅費	100	・講師旅費 $75,000円 \times 2人 \times 1回 = 150,000円$			
備考 講師への謝金, 旅費の不足分は自費にて対応する						
スケジュール	4月～7月 沖縄地域における食材や伝統食品と健康・長寿の関連性を調査 8月・「健康長寿科学」科目を開講 ・沖縄地域における食材や伝統食品と健康・長寿の関連性を発表, グループディスカッション(招聘した講師も参加) ・招聘した講師による食品の機能性, 安全性, 健康長寿に関するセミナー					

※全体で2枚以内にまとめること

■ ■ 科目番号			
資312			
■ ■ 開講年度	■ ■ 開講学期	■ ■ 曜日時限	■ ■ 開講学部等
2018	前学期	集中	農学部亜熱帯生物資源科学科
■ ■ 講義コード	■ ■ 科目名[英文名]		■ ■ 単位数
701191001	健康長寿科学		2
■ ■ 担当教員[ローマ字表記]			
金子 哲			

授業の形態

講義

アクティブラーニング

学生が自身の考えを発表する、学生が文献や資料を調べる

授業内容と方法

学生参加型のアクティブラーニングを行います。健康・長寿に関する講義を行うとともに、沖縄特有の食材や伝統食品について、分担で調査を行い、発表していただきます。

集中講義

夏休み期間に開講予定。

詳細は6月末に掲示する。

URGCC学習教育目標

自律性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、問題解決力、専門性

達成目標

長寿や健康に関する知識を習得する。[専門性]

沖縄地域の食材、伝統食品に関する知識を習得する。[地域・国際性][専門性]

機能性食品や健康補助食品についての理解を深める。[専門性][自律性][問題解決力]

長寿を取り巻く環境について理解する。[自律性][問題解決力]

沖縄の食と健康長寿に関する事項を正しく発信できる。[地域・国際性][専門性][自律性][問題解決力][コミュニケーションスキル]

この科目は農学部で提供する学士教育プログラムの学習教育目標の「亜熱帯の生物資源の機能 特性を分子から生体レベルで追求し、人類の福祉に有効な機能性素材を開発する開発や利用に 関する専門的知識を理解する能力」に関連した 授業である。

評価基準と評価方法

講義の最後にテストを行い、理解度を評価するとともに、アクティブラーニングへの参加状況を総合的に評価する。

履修条件

亜熱帯生物資源科学科に所属する学生が対象（2016年度以前の入学者）

授業計画

1～5.健康と長寿，長寿と運動，長寿と性格，長寿と社会，生活習慣病

6～10.機能性食品と安全・安信，長寿・健康研究

11～16.長寿と食，沖縄の食材・伝統食品，テスト

事前学習

1. 沖縄の食べ物に関する資料の準備

沖縄の高齢者が昔食べていた食べ物について、「食べ物や野菜の写真」、「どのようなものであるかの説明」、「含まれる成分（特に健康に係るもの）や機能性」、「どうやって食べるのか」、「おすすめレシピ」、「参考文献」を調査し、資料を作成する。

2. 健康食品に関する調査

興味を持った健康食品について、「健康に良いとされる成分の名前」、「興味を持った理由」、「含まれる成分の機能と信頼性（どのような実験を行って機能性が確かめられているか）」、「安全性（どのような実験を行って安全性が確かめられているか）」、「調査を行った上で対象の健康食品を使用したいかどうか」、「参考文献」について調査する。

■ ■ 事後学習

講義の内容を十分に復習し、正しい情報発信ができるような知識を身につける。

■ ■ 教科書にかかわる情報

■ ■ 教科書全体備考

■ ■ 参考書にかかわる情報

■ ■ 参考書全体備考

■ ■ 使用言語

日本語

■ ■ メッセージ

集中講義

■ ■ オフィスアワー

月曜日16:00から17:00

■ ■ メールアドレス

sakaneko@eve.u-ryukyu.ac.jp

■ ■ URL

平成31(令和元)年度 地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組
申請書

部局等： 農学部

取組名	やんばるの世界遺産登録に向けた森林ツーリズム案内人材育成	配分額	100千円			
取組の区分	継続申請					
対象科目名	森林ツーリズム論					
科目の区分 (あてはまるものを選択又は記入)	組織	受講年次	教育種別	講義形態	必修選択	開講学期
	学部	2～4年次	専門教育	講義	選択必修	前学期
取組の実施概要・特色	本取組では、地域における「貴重な野生動植物の保全と地域の活性化の両立」という課題を解決するために、学生に「課題を見つける、解決策を提案する、自ら行動する」という活動をさせる。具体的には、やんばる地域をフィールドとし、学生に「やんばるを世界遺産登録する動きに対して環境資源を保全・活用して離島での豊かな生活を実現できることに関してはどうすればいいか」という課題の解決策を探るフィールドワークおよびワークショップを実施する。「やんばるの自然資源の現状、山林の歴史文化、山村地域の振興」に関する情報を収集し、分析する。世界自然遺産候補地として適正な資源の保全と管理に対する理解をした上で、適切なエコツーリズムプログラムを策定し、やんばるの自然・文化に関する観光案内を考案する。そして、日本語、英語でそれぞれ観光マニュアルを作成する。その際、連携自治体の「国頭村安田区長」、「NPO エコツーリズムの研究所」代表を外部講師として招聘する。本取組の特色は、「安田集落」、およびエコツーリズム業界と連携し、「地域の課題を理解すること」ができる点にある。					
取組の効果 (地域課題解決・教育効果)	「やんばるの世界遺産登録に向けた森林ツーリズム案内人材育成」を実施することで、学生の「地域コーディネート能力、地域理解力」を向上させることができる。現地の勉強では、関係者の聞き取りを通じて、「コミュニケーション・スキル」力と「問題解決力」力を身につけさせることができる。また、教員の地域への理解と地域活性化に関する意識の改善を図ることを目標とする。また、同時に、学生が「沖縄の地域へ理解と地域の持続的保全利用に関する意識」を高めることで、「学卒者の地域への定着」に資する取組とすることができる。平成29年度に沖縄県入域観光客は1,000万弱人に達し、その中には300万が外国人の観光客であった。沖縄の歴史・文化・自然に関する魅力を外国人に理解してもらうため、解説できる人材の育成が必要である。世界自然遺産候補地のやんばるでは豊かな自然に恵まれて、観光利用の増加に伴い、適切な自然保護知識をもち、観光客を案内できる人材を育成し、新たな雇用創出につながると考える。 さらに、「やんばるの自然資源の現状、山林の歴史文化、山村地域の振興」の調査を通じて「沖縄の地域課題」を把握し、「課題を解決する政策提案」を行う					

	際の基礎データとして活用することができるようになる。また、本学における学生の地域志向型の人材を育成する取組の改善に反映し、学生の「地域への定着」の率を 80%まで上昇させる。			
実施担当者 (代表者に※を付すこと)	氏 名	所属職名 (役職名)	担 当 分 担	
	陳碧霞	准教授	代表者	
経 費	事 項	予 定 額 (千円)	積 算 内 訳	備 考
	謝 金	10	・ 講師謝金 5,000円×2人×1回＝ 10,000円	
	旅 費	30	・ 事前調査旅費 15,000円×人×2回＝ 30,000円	
	旅 費	48	・ 調査旅費(宿泊代の一部) 2,000円×24人×1回＝ 48,000円	
	消耗品	12	・ 活動実施のための材料費等の消耗品 12,000円×1回＝ 12,000円	
スケジュール	5 月 国頭村、安田集落自治体との調整、NP0エコツーリズムの研究所 6 月 実践教育の実施 7 月 実践教育の効果に関する分析 (アンケート、聞き取り) 8 月 報告書の作成・提出			

※全体で2枚以内にまとめること

■ ■ 科目番号			
地379			
■ ■ 開講年度	■ ■ 開講学期	■ ■ 曜日時限	■ ■ 開講学部等
2018	前学期	木3	農学部亜熱帯地域農学科
■ ■ 講義コード	■ ■ 科目名[英文名]		■ ■ 単位数
701035001	森林ツーリズム論		2
■ ■ 担当教員[ローマ字表記]			
陳 碧霞, 大田 伊久雄			

授業の形態

講義

アクティブラーニング

授業内容と方法

森林ツーリズムの理論と実践を学ぶ。森林ツーリズムの要素として、森林環境、歴史、文化などがあげられる。沖縄の森林ツーリズムの可能性について解説し、沖縄の森林文化、集落景観などの特徴について解説する。沖縄における観光開発と森林景観保全の両立課題を現地レポート及びフィールド調査に通じて解説する。

授業方法

講義、フィールド調査、大学キャンパスミニツアー、グループディスカッション、口頭発表

URGCC学習教育目標

社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、問題解決力、専門性

達成目標

1. 森林を通したツーリズムの新たな可能性について、基礎知識と実践理論を習得する。[専門性]
2. 森林保全と観光開発の両立課題について国際的動向及び日本国内の現状が習得できる。[専門性]
3. 地域のNPO及び住民との交流により、離島地域の特有な課題を理解し、地域意識を高めることができる。
4. フィールド調査により、地域課題の解決に向けて積極的に提案することができる。[地域・国際性]・[問題解決力]
5. 地域住民にインタビューし、また、グループのメンバーと協調して意見を交わすことができる。[コミュニケーション・スキル]
6. 口頭発表により、自身の考えを的確に表現できる。[社会性]

この科目は地域農学学士教育プログラムの学習教育目標の「持続的食料自給システム並び都市と農山村との循環型社会の構築に関する専門的知識を理解する能力」を身につけることに関連した授業である。

評価基準と評価方法

ミニテスト（20％）、総合討論・口頭発表（50％）、期末レポート（30％）

履修条件

授業計画

第一回 オリエンテーション

第二回 森林を観光資源として

第三回 事例紹介：山村振興政策としてのグリーンツーリズムー日本能登半島

第四回 事例紹介：都市型森林公園のレクリエーション利用ー中国の国家森林公园

第五回 事例紹介：森林ツーリズム開発により経済効果、環境保全問題ー中国の国家森林公园を事例として

第六回 沖縄における森林ツーリズムの展開の可能性ー概説

第七回 琉球列島におけるフクギ屋敷林景観と島の観光

- 第八回 伝統的な緑の空間を観光資源化の課題—本部町備瀬区NPO関係者により講義
- 第九回 フィールド調査1：今帰仁村今泊集落の抱護
- 第十回 フィールド調査2：本部町備瀬区のフクギ屋敷林景観の観光利用
- 第十一回 フィールド調査3：：やんばる学びの森のエコツアー
- 第十二回 フィールド調査4：風水集落と植林—名護市真喜屋稲嶺集落
- 第十三回 キャンパスツアー：琉球大学にある有用植物を探す
- 第十四回 グループディスカッション（島嶼地域の観光開発の課題）
- 第十五回 口頭発表（島嶼地域における観光開発の課題）

■ ■ 事前学習

事前に教科書や配付資料に目を通した上で授業に臨むこと。

■ ■ 事後学習

授業終了後は復習を行うこと。

■ ■ 教科書にかかわる情報

■ ■ 教科書全体備考

■ ■ 参考書にかかわる情報

■ ■ 参考書全体備考

■ ■ 使用言語

日本語

■ ■ メッセージ

■ ■ オフィスアワー

随時に対応します。

■ ■ メールアドレス

chenbx@agr.u-ryukyu.ac.jp

■ ■ URL

平成 3 1 (令和元) 年度 地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組
申請書

部局等： 農学部

取組名	亜熱帯地域作物の病害防除に携わる人材育成 を目指す実験プログラムの改善 (2)		配分額	100千円		
取組の区分	継続申請					
対象科目名	植物病理学実験					
科目の区分	組織	受講年次	教育種別	講義形態	必修選択	開講学期
	学部	3 年次	専門教育	実験	選択必修	前学期
取組の実施概要・特色	沖縄県内の農業生産現場で病害が発生した場合に、生産者に対して、沖縄県職員（農業改良普及員）、時には、農林水産省植物防疫所（植物防疫官）が、対策などを指導する立場にあり、行政サービスとして、この課題に対応している。それらを担う職員は、就職以前に植物病理学の知識を学んでいるとは限らず、各職員は独学で病害対策の知識を学ぶことが多いため、個人の能力に依存するところが大きい。特に分子生物学の基礎的な知識を独学で学ぶことは難しい。したがって、地域課題に対応する農業研究機関には、慢性的に植物病理学とそれに関する分子生物学の専門知識を持った人材が不足している状況にある。 昨年度、このような地域の農業課題に即戦力となる人材育成を目指した実験プログラムの構築のため、実際に沖縄県内で問題となっている病害を実験材料とし、地域課題に取り組む公設試験研究機関の研究者と学生が講義を通して交流する機会を設けた地域志向型の実験講義を行った。その取り組みの結果、社会人の研修の受け入れや、植物防疫関係者の研修会に講師として招聘される成果があった。その研修会の参加者方から「PCR やシーケンスについていまさらきけない」という声があり、当該講義のプログラムを顧みると時代のニーズにあわせて、PCR やシーケンス解析の実験を行う必要性を感じた。また、本年度那覇植物防疫事務所の職員が地域農業病害対策に資する技術習得のため、本学へ研修にきたいという要望があり、その基礎的な部分の理解をするための実験プログラムとしても活用できると考えられる。 (1) 「時短 PCR 法開発」これまで、PCR については、DNA 抽出が 2 時間、反応時間が 2 時間半、電気泳動・写真撮影に 1 時間かかっていた。そのため、2 回にわたって実験をおこなっていたが、新たな検出法として LAMP 法と DNA chromatography を利用した迅速検出法を確立し、1 時間程度でウイルスを検出することで、時間の短縮を行う。沖縄県のトマト栽培圃場で甚大な被害を及ぼしている、トマト黄化葉巻ウイルスの検出法を改良し、1 回の講義時間の中で作業が終わるように取り組む。 (2) 「シーケンス解析の実習」また、これによって時間ができるためシーケンス解析技術の回を設ける。毎年シーケンス反応をすると試薬代がかかるため、今年度、ウイルスのシーケンス情報を得て、これをモデルとして BLAST サーチによる相同性検出、特異的な反応プライマーの設計法を新たに実験プログラムに加える。 (3) 「地域志向教育」集大成として那覇植物防疫事務所の隔離検疫業務の実地研					

	修を催すことで、それまでに習得した実験が社会的にどのように役に立っているかを再認識する機会を持つ。尚、本研修については、講義登録者以外の希望者（主に国家公務員一般職採用試験受験希望者）も参加できるものとする。PCR 法の実験の回をこの実地研修に合わせることで、植物防疫所の社会人再教育の場を提供できる。またシーケンス解析の実習を沖縄県病害虫防除技術センターの会議室で行う。 (4) 「社会人向け再教育プログラムとしてのメニューの公開」公開講座とするだけでなく、より一般の方へ広く見えやすい形で、研修メニューとして整理して、各個研修の受け入れが可能な形にする。農学部ホームページや、未来共創フェアを活用して研修メニューを公開する。			
取組の効果 （地域課題解決・教育効果）	琉球大学は沖縄県内で唯一、農学分野の教育の場を提供できる機関である。これに加えて、農学部植物病理学研究室の2名の教員は、糸状菌・細菌・ウイルス・線虫と広範囲の病原体を研究対象として扱うことができる点は国内でも類を見ない。この恵まれた教育環境を社会人再教育の場として最適である。将来的には、社会人再教育の場として公開講座とすることを目指し、沖縄県内の地域課題解決に取り組む社会人と学生が交流を持つ機会を作り、学生にさらなる地域志向教育を提供できるものと期待される。 那覇植物防疫事務所の隔離検疫業務の実地研修では、わが国の最南端であり、海外からの病原体の侵入が最も警戒されている沖縄県における植物防疫体制を、これを担う研究者の立場から説明頂き、現場対応している防疫官の生の声を聞くことで、地域農業の課題をリアルに考える時間を持つ。昨年度実施した結果、隔離検疫業務の実地研修の取組について那覇植物防疫事務所からも好評価を得ており、本年度以降の継続的な実施が望まれている。また迅速なウイルス検出技術が沖縄県内の様々な病害に活用できるようになることで、地域農業の病害の早期発見につながり、生産性の向上につながる事が期待できる。			
実施担当者 （代表者に※を付すこと）	氏 名	所属職名 （役職名）	担 当 分 担	
	田場 聡 ※関根 健太郎	農学部・教授 農学部・准教授	病原糸状菌・線虫実験 ウイルス・細菌実験	
経 費	事項	予定額 （千円）	積算内訳	備 考
	旅 費 消耗品	10 90	調査旅費（沖縄県内） 2,500円×1名×4回=10,000円 DNA chromatography 開発費 70,000円 シーケンス消耗品 20,000円	
スケジュール	4 月 植物病理学実験を開講（毎週火曜日） 5 月 公設試験研究機関との事前打合せ、病害発生圃場現地調査 6 月 ウイルス検定法開発、解析用シーケンスデータの取得 7 月 那覇植物防疫事務所隔離検疫業務実地研修（PCRの回） 沖縄県病害虫防除技術センター（出張講義）アンケート実施、報告書作成			

科目番号			
環312			
開講年度	開講学期	曜日時限	開講学部等
2019	前学期	火3～4前半	農学部亜熱帯農林環境科学科
講義コード	科目名[英文名]		単位数
701079001	植物病理学実験		1
担当教員[ローマ字表記]			
田場 聡, 関根 健太郎			

授業の形態

演習又は実験、TA有り

アクティブラーニング

フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ、学生が文献や資料を調べる

授業内容と方法

熱帯・亜熱帯で発生する植物の重要病害を題材として、植物病理学の基礎となる病原微生物の分離・培養・形態分類をはじめとして、接種および薬剤防除試験などの過程を通して、病原体とこれによって引き起こされる病害との因果関係を学び、その防除や治療法についても考察する。また研究倫理教育も行う。さらに、熱帯果樹の栽培を模擬的に体験し、その中で発生する病害を、身近な地域課題としてとらえ、地域の抱える課題を知り、これを解決するための方策について検討する。その際に、実際に地域課題に取り組む社会人（農業病害関係研究機関研究員）を特別講師とする特別演習の時間を設ける。以上のように、植物病理学に関する実験技術の体験を通し、専門性を養うだけでなく、地域課題を身近に考え、その解決を目指す農学学士の輩出に資する。

平成31年度は那覇植物防疫事務所での病原体検定に関する特別演習を実施する予定である。

URGCC学習教育目標

地域・国際性、情報リテラシー、問題解決力、専門性

達成目標

各種病原体を用いて分離・培養、接種および農薬検定など行うことで植物病理学実験の基礎を修得するとともに研究倫理を理解する。グローバルシティズン・カリキュラム（URGCC）においては、植物の安定多収・高品質生産の確立を目指す、植物の生理・生化学的機能及び植物と病害虫あるいは微生物との関係の解明に関する専門知識を理解する能力を身につけることを達成目標とする。

1. 各種病原菌における植物病害の特徴をとらえるとともに、分離、培養および接種法を習得している。
2. 病原菌の同定法（形態観察、遺伝子診断および簡易同定法）を習得している。
3. 農薬検定法を習得している。

この科目は農学部で提供する学士教育プログラムの学習目標の「安心・安全・高品質な作物生産の技術開発を目指して、生理・形態・生態・生化学的機能及び植物と病原微生物との関係性の解明と応用に関する専門知識と能力」を身につけることに関連した授業である。

以上の専門性の目標に加えて、以下のURGCC学習教育目標を設定する。

4. 地域課題の解決に向けて積極的に提案することができる。【地域・国際性】・【問題解決力】
5. 自身の考えを的確に表現できる。【コミュニケーション・スキル】
6. グループのメンバーと協調して意見を交わすことができる。【社会性】

評価基準と評価方法

評価基準：レポート内容（70%）および受講態度（30%）とし、学則に従い60点以上を合格とする。

評価方法：60～70点未満を「D」、70～80点未満を「C」、80～90点未満を「B」、90点以上を「A」として評価を行う。

出席が3分の2に満たない場合は単位を与えない。

* 不測の事態が生じた場合には、受講者にとって不利にならないように配点を変更することがある。

履修条件

特になし

■ ■ 授業計画

1. 実験内容説明（レポート作成要領）、研究倫理教育、顕微鏡操作法
2. 糸状菌病（1）鞭毛菌、接合菌
3. 糸状菌病（2）子のう菌類・担子菌類
4. 糸状菌病（3）不完全菌類
5. 病原菌の分離・培養
6. 病原菌の接種と病徴再現（再分離）
7. 根こぶ線虫病と土壌線虫類
8. 土壌希釈平板法
9. 拮抗微生物と拮抗作用
10. ウイルス病①接種と症状の観察（フィールドワーク：特別演習①）
11. ウイルス病②簡易検定
12. 遺伝子解析法①（DNAの抽出）（フィールドワーク：特別演習②）
13. 遺伝子解析法②（PCR、RFLP）（フィールドワーク：特別演習③）
14. 細菌病①（青枯病、軟腐病）
15. 細菌病②（カンキツグリーニング病）授業評価アンケート
16. 農薬検定法

■ ■ 事前学習

各項目（病原体や実験方法）について関連文献等で調べる。

■ ■ 事後学習

実験ごとにレポートを課すが、その際に復習を行うとともに重要事項については十分な情報収集を行う。

■ ■ 教科書にかかわる情報

■ ■ 教科書全体備考

『授業時に配布する資料を用いる』

■ ■ 参考書にかかわる情報

参考書	書名	『協本 哲：植物病原微生物研究法（ソフトサイエンス社）』			ISBN	4881710451	備考	
	著者名							
	出版社		出版年		NCID			
参考書	書名	『岸 國平：日本植物病害大事典（養賢堂）』			ISBN	4881370707	備考	
	著者名							
	出版社		出版年		NCID			
参考書	書名	『大木 理：植物ウイルス同定のテクニックとデザイン（日本植物防疫協会）』			ISBN	9784889261226	備考	
	著者名							
	出版社		出版年		NCID			

■ ■ 参考書全体備考

■ ■ 使用言語

日本語

■ ■ メッセージ

実験計画は進度や実験材料の準備状況によって変更することもある。

平成 3 1 (令和元) 年度 地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組
申請書

部局等：国際教育センター

取組名	地域住民・留学生・日本人学生の恒常的な「絆」作りプロジェクト			配分額	100千円	
取組の区分	新規申請					
対象科目名	グローバル実践演習Ⅰ（前期）・グローバル実践演習Ⅱ（後期）					
科目の区分	組織	受講年次	教育種別	講義形態	必修選択	開講学期
	学部	指定なし	共通教育	演習	自由選択	前学期 後学期
取組の実施概要・特色	①本取り組みは、地域の様々な課題について、本学の留学生と日本人学生、そして地域住民が、協働学習を通して、課題解決に取り組む様々なプロジェクトを実施し、学内だけでなく地域における「グローバル・リテラシー」を高め、互いに多様性を尊重する姿勢を養い、<u>留学生・日本人学生・地域住民の「深い」交流の場を恒常的に提供することを目指すものである。</u> ②その一環として、2019 年度前期は 2019 年 6 月、後期は 12 月に、地域における課題解決と多様性理解の促進を目的としたイベントを開催する。イベントには、<u>西原町役場が運営する「NSBP（西原ソーシャルビジネスプロジェクト）」のメンバーである西原町在住の高校生も参加する他、近隣自治体の各自治会、団体等にも広く協働参加を呼びかける予定である。そのイベントを広く周知する手段として、受講生らが SNS を用いた広告活動を行うことで、地域からより多くのイベント参加者を募るとともに、受講生らの IT リテラシーを高める。</u>					
取組の効果 (地域課題解決・教育効果)	①旧・留学生センター（国際教育センターの前身）では 2000 年から「留学生祭り」を毎年開催したり、小中学校からの要請に応じて留学生を派遣したりしてきたが、1 回限りのイベントでは「ホストとゲスト」という浅い交流、または「交流のための交流」「お見合い」と同構造となると問題がみられた。その反省を踏まえ、本取り組みは「交流」のために集まるのではなく、プロジェクトを共に作り上げるために集まり、協働することによってはじめて真の「交流」が生まれるという視点に立つ。それにより、プロジェクト終了時には「仲間」あるいは「友人」が生まれ、<u>真の国際交流と地域交流の活性化が促進される</u>ことが期待される。 ②2019 年前期開講中の「グローバル実践演習Ⅰ」受講者 47 名は、日本人学生 15 名、外国人留学生 32 名であり、日本語・英語を媒介語として「地域貢献のために自分たちは何ができるか」をグループで考え、行動する準備を行っている。第 6 回目からは地域の高校生（20 名程度予定）も各グループに別れて参加し、共に活動を進める。<u>これまでに地域の高校生を協働学習に継続的に参加させた授業は、申請者らの知る限り、皆無である。本取り組みにより、地域の高校生と本学留学生と日本人学生の深い「絆」が構築されることが可能になる。</u> ③本取り組みの効果により、イベントには地域からより多くの来場者が参加することが予想され、様々な国から来た留学生たちと触れ合う機会が提供され、<u>地域全体のグローバル教育が可能になる。</u>言語教育的観点からも、特に子供たちにとっては、幼少期における目標言語（外国語）話者との友好的接触は、その後の第二言語習得の自信や動機づけの維持につながることから、<u>地域における第二言語教育にも貢献する</u>といえる。 ④本申請が不採択の場合、イベントに関わる経費を学生が立て替えることになり、赤字にならないようプロジェクトの「成功」を必要以上に重視しなければならなくなる。「教育の核は、死に至らない失敗を安全に経験できること」という観点から、本取り組みでは、プロジェクト					

	の成否よりも、その過程における、以下のような経験を重視している： ・さまざまな意見の中から自分たちで意思決定をする経験、 ・CMを作る際に音楽、イラスト等の著作権について実際に学ぶ経験、 ・金銭の出納とその管理等の経験、 ・企業スポンサーや地域コミュニティとの接触におけるビジネスマナー習得やビジネス文書作成等の経験、 本経費の獲得により、受講生らが過度に「失敗」を恐れず、教育活動に集中して取り組むことが可能になる。			
実施担当者 （代表者に※を付すこと）	氏 名	所属職名 （役職名）		担 当 分 担
	※山元 淑乃	国際教育センター（講師）		全体総括、学生サポート
	新城 直樹	国際教育センター（講師）		全体総括補佐、学生サポート
	小島 肇	地域連携推進機構（准教授）		西原町役場渉外、学生サポート
	石川 隆士	国際地創造像学部（教授）		学生サポート
	名嶋 義直	国際教育センター（教授）		学生サポート
	渡真利 聖子	国際教育センター（講師）		学生サポート
	玉那覇 敦也	西原町役場 建設部 産業観光課		高校生サポート、イベント実施補助
	笹倉 絹代	西原町役場 建設部 産業観光課		高校生サポート、イベント実施補助
経 費	事項	予定額 (千円)	積算内訳	備 考
	消耗品	26	・「各国の食文化紹介」イベントにおける消耗品 26000円	食器類、清掃用品、希少食材等 広告の実際を学ぶための、Youtube/Facebook/Instagramの広告経費
	印刷費	14	・ちらし（B5・カラー） 7円×2000枚＝14000円	
	教材開発費	60	・Youtube/Facebook/Instagram等、Web広告制作に関する教材開発費 20000円×3サイト＝60000円	
スケジュール	4～5月「地域貢献・国際交流」イベント実施のため自治体（西原町役場）との調整 6月 「地域貢献・国際交流」イベント実施、来場者へのアンケート実施 7月 「グローバル実践演習」受講者へのアンケート実施 前期の報告書取りまとめ 10～11月「地域貢献・国際交流」イベント実施のため自治体（西原町役場）との調整 12月 「地域貢献・国際交流」イベント実施、来場者へのアンケート実施 1月 「グローバル実践演習」受講者へのアンケート実施 後期の報告書取りまとめ			

※全体で2枚以内にまとめること

科目番号			
琉102			
開講年度	開講学期	曜日時限	開講学部等
2019	前学期	火5	共通教育等科目
講義コード	科目名[英文名]		単位数
101445001	グローバル実践演習 I		2
担当教員[ローマ字表記]			
山元 淑乃, 新城 直樹, 小島 肇 [kojima hajime], 石川 隆士, 名嶋 義直, 渡真利 聖子			

授業の形態

演習又は実験

アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ、学生が文献や資料を調べる

授業内容と方法

留学生と日本人学生の協働学習による、国際交流と地域の課題解決を目的としたプロジェクトを企画・運営する。西原町の高校生や地域住民の参加も参加し、受講生は地域の様々な階層で、コミュニティのグローバルリーダーとして活躍することが期待されている。

URGCC学習教育目標

自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力

達成目標

- 多様な背景を持つ他者を尊重し理解できるだけでなく、自分の考えを伝えて相手を説得できる
- チーム内のコミュニケーション不全にも柔軟に対応して修正し、多様な人材を動機づけ、かれらから尊敬と信頼を勝ち取り、チームとしての成果を発揮できる
- 俯瞰的かつ複層的な視野と情報収集能力を駆使し、論理的に仮説を立てることができる
- 主体的に解決すべき課題を設定し、予測不能な事態にも柔軟かつ臨機応変に対応しながら、設定した目標を達成できる
- 不確実で複雑性の高い課題にも積極的に挑戦し続けることができる

評価基準と評価方法

評価基準：多文化理解能力（20点）課題設定能力（20点）・課題遂行能力（40点）・リーダーシップ力（20点）

評価方法：グループごとの週報作成と全体への共有（40%）・ポートフォリオ(30%)・学期末レポート（30%）

履修条件

日本語または英語で協働学習に参加する意欲があること

授業計画

- 第1回：イントロダクション
 第2回：ブレインストーミング
 第3回：ブレインストーミング（プロジェクト企画）
 第4回：グループ分けと担当者の決定
 第5回：グループの目標設定
 第6回：グループ活動
 第7回：グループ活動
 第8回：中間報告会
 第9回：グループ活動（地域住民参加）
 第10回：グループ活動（地域住民参加）

- 第1 1回：グループ活動（地域住民参加）
- 第1 2回：事前報告会
- 第1 3回：プロジェクト実施（地域住民参加）
- 第1 4回：事後報告会（地域住民参加）
- 第1 5回：今後の目標設定

■ ■ 事前学習

次週の活動のための準備

■ ■ 事後学習

週報の作成と共有・グループラインでの報告

■ ■ 教科書にかかわる情報

■ ■ 教科書全体備考

■ ■ 参考書にかかわる情報

■ ■ 参考書全体備考

■ ■ 使用言語

日本語

■ ■ メッセージ

■ ■ オフィスアワー

火曜日4限 国際教育センター 205-1 山元研究室

■ ■ メールアドレス

ysn@lab.u-ryukyu.ac.jp

■ ■ URL

平成 31 (令和元) 年度

地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組の募集要項

1. 本取組の目的・ねらい

本取組は、「地域志向教育」をより拡充・強化し、推進するため、本学で開講される正規の授業を対象に、その改善取組を募集し、優れた取組に対して経費を支援するものである。これにより、本学の基本理念の一つである「地域に貢献する大学」、すなわち、地域に対して積極的に関与し、地域に貢献する人材を育成する大学として、社会貢献の責務を果たすことを目指す。

2. 募集する取組に求める要件

- (1) 本学で開講される正課として実施される地域志向科目等の授業科目において、本取組の支援により実施される内容が、当該地域における「特徴的な課題」の理解や解決に直接的に資する取組で、学生の地域志向の向上に資すること。
- (2) 本取組の支援により実施される内容によって、過去の授業（現行のシラバス）と対比して、新規性や改善点が明瞭であること。なお、継続申請の取組も対象とするが、その場合であっても、今年度の取組みの新規性や改善点が明瞭であること。
- (3) 「地域の再生・活性化」あるいは「地域課題の解決」等に資する人材像を具体的かつ明確に設定しており、その達成に向け適合する教育方法を採用していること。
- (4) アクティブ・ラーニング型の教育・学習を取り入れていることが望ましい。
- (5) シラバスにおいて、学生の学習成果を評価する方法並びに評価基準を明確に設定しており、かつそれらが達成目標に対し適合するものであること。
- (6) シラバスにおいて、授業の達成目標に、URGCC 学習教育目標「地域・国際性」、もしくはこれに該当する目標を設定していること。加えて、同じく URGCC 学習教育目標「社会性」、「コミュニケーション・スキル」、「問題解決力」のいずれか、もしくはこれらに該当する目標のいずれかを設定していることが望ましい。
- (7) 平成 31 (令和元) 年度（前学期もしくは後学期）の授業として遂行できる取組であること。
- (8) 経費補助期間終了後においても継続的かつ発展的な授業改善が見込める取組であることが望ましい。
- (9) 要求できる経費に関しては、別添 4 の要求を満たしていること。
- (10) 年度末に予定している R C C 事業報告会及び琉大未来共創フェアにおいて、本取組みによる実施結果の報告に協力できること。
※別添 5 に平成 30 年度の採択例を添付している。必要であれば参照のこと。

3. 採択後のルール

- (1) 授業科目のシラバスにおいて、「地域」を志向する授業である旨を示すこと。また、「達成目標」欄に記載される目標に、共通教育等科目の場合は、URGCC 学習教育目標の一つである「地域・国際性」を、専門教育科目においてはこれに該当する目標を含め、表記すること。上記以外の目標（「社会性」、「コミュニケーション・スキル」、「問題解決力」）を設定する場合も同様に表記すること。
- (2) 経費の使用に当たっては、最少の費用で最大の効果があがるよう努めること。
- (3) R C C 事業本部が指定する期日までに「地域志向活動トライアル経費成果報告書」を当本部宛に提出すること。
- (4) R C C 事業本部が実施内容に関してヒアリングおよびアンケート調査を行う場合、その求めに応じること。
- (5) 年度末に予定している R C C 事業報告会及び琉大未来共創フェアにおいて、本取組みによる実施結果の報告に協力すること。

4. 応募資格

- ・国立大学法人琉球大学職員就業規則第2条第2項で定義される大学教員。
なお、他の機関や本学から類似の経費の助成を受けていないこと。

5. 予算配分予定総額（700千円）

- ・一取組あたり100千円を上限とする。

※採択に際して、配分額の調整をおこなう可能性がある。

※今後の地域志向活動トライアル経費の予算総額の見直しにより総額が変更になる可能性がある。

6. 新規・継続の区分について

申請者は、申請書面において、申請する取組の対象科目が「新規」科目（初めて本経費に応募する科目）であるか、「継続」科目（平成26年度後期～平成30年度後期に本経費による配分を受けたことがある科目）であるかの別を明示すること。

7. 新規申請者および新規科目の取組の優先について

応募件数が多数となり、優れた申請取組すべてに対し経費を配分することが困難となった場合、新規申請者（過去に本取組による採択を受けていない申請者）および新規科目の申請取組を優先して採択する。

8. 支援期間・対象

本学の学部および大学院で提供される授業科目で、平成31（令和元）年度前学期及び後学期に開講される正課の授業科目を対象とする。今年度より後学期の募集も前学期分と合わせて実施する。

9. 応募期間

平成31年4月26日（金）～令和元年5月10日（金）17:00メール必着

10. 申請について

申請者（代表者）は、「申請書」（別添2）に必要事項を記入のうえ、各担当部局にメールにて提出すること。また、併せて、今回の経費の使用対象となる科目の現行のシラバス（すでも公開されているシラバス）と本取組により実施する内容（シラバスの修正案）に関する資料（別添3）を提出すること。その際、現行のシラバスからの変更点や新規性がわかるよう配慮すること。

11. 選考および選考結果の通知

各申請取組の実施概要等と本取組の趣旨（目的・ねらいや要件等）とを照らし合わせた上で、選考は、RCC事業本部において行い、採択の可否について役員会（役員等懇談会）において審議・決定する。選考結果は、申請者（代表者）に通知する。

12. 経費

(1) 認められる経費については、以下のとおりである。

教材開発費、資料購入費、印刷費、消耗品費、インターンシップ諸経費、教員対象の旅費、実践教育実施のためのバス・宿泊施設の借上費用、講師謝金、講師招聘旅費等。

(2) 認められない経費については、以下のとおりである。

教員の人件費、学生個人対象の旅費、機械設備費、備品購入費等。

※詳しくは、別添4の経費支出に関する留意点を参照のこと。

13. その他

(1) 同じ者が複数の申請を行うことはできない。

(2) 提出された「成果報告書」（様式は別途指定する）により、RCC事業本部において、各教員の成果や経費の執行状況を確認し、進捗状況等の実績の評価を行う。

(別添2)

**平成31（令和元）年度 地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組
申請書**

部局等：_____

取組名					配分額	千円
取組の区分	新規申請 / 継続申請					
対象科目名						
科目の区分 (あてはまるものを選択又は記入)	組織	受講年次	教育種別	講義形態	必修選択	開講学期
	学部 大学院	年次	共通教育 専門教育	講義 演習 実験 実習 実技	必修 選択必修 自由選択	前学期 後学期
取組の実施概要・特色	授業において設定している地域課題と、その課題を授業でどのように扱うか記述して下さい。					
取組の効果 (地域課題解決・教育効果)	新たに経費を使用して実施する内容と教育的効果について、新規性・必要性がわかるように記述して下さい。					
実施担当者 (代表者に※を付すこと)	氏名	所属職名 (役職名)		担当分担		
経費	事項	予定額 (千円)	積算内訳			備考
スケジュール						

※全体で2枚以内にまとめること

平成31（令和元）年度 地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組
申請書（記載例）

部局等：〇〇学部

取組名	地域の〇△□問題の解決に貢献する人材育成に向けた取組			配分額	200千円	
取組の区分	新規申請					
科目名	〇△□学入門					
科目の区分 （あてはまるものを選択）	組織	受講年次	教育種別	講義形態	必修選択	開講学期
	学部	2～4年次	共通教育	講義	自由選択	前学期
取組の実施概要・特色	①本取組では、地域における「・・・」という課題を解決するために、「・・・」をすることによって、「・・・」や「・・・」といった能力を有した人材の育成を目指す。 ②〇月に、「・・・」の授業科目を開設し、〇〇人の学生を対象に講義を行う。連携自治体の・・・を外部講師とし、・・・を展開する。また、・・・の実習を行う。 ③〇月に・・・を対象に・・・について調査を行い、・・・における・・・を把握し、これまでの授業の・・・の部分の改善に反映させる。					
取組の効果 （地域課題解決・教育効果）	①・・・を実施することで、学生の・・・をする力を向上させる。実習では、・・・を通じて、・・・力と・・・力を身につけさせる。また、教員の・・・の意識の改善を図ることを目標とする。 ②・・・の調査により、・・・における・・・を把握し、・・・を行う際の基礎データとして活用する。また、本学における・・・の取組の改善に反映し、学生の・・・が向上させる。 ③・・・手法を導入することにより、地域住民の・・・の向上を目指すとともに、学生の参加により・・・の率を・・・%程度まで上昇させる。					
実施担当者 （代表者に※を付すこと）	氏名	所属職名 （役職名）		担当分担		

経費	事項	予定額 (千円)	積算内訳	備考
	謝金	50	・ ○○謝金 ◎円×○人×△回＝◎○円	
	旅費	100	・ 調査旅費 ◎円×○人×△回＝◎○円	
	消耗品	50	・ 消耗品 ◎円×○人×△回＝◎○円	
スケジュール	◎月 「	」科目を開講のため自治体との調整		
	○月 「	」科目を開講のため企業やNPOとの調整		
	□月 「	」科目を開講のため調査（アンケート）を実施		
	△月 「	」科目を開講		
	○月 「	」報告書とりまとめ		
	□月 「	」の公開講座を開講		

※全体で2枚以内にまとめること

**平成31（令和元）年度 地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組
申請書記入要領**

1. 部局等について

- ・部局等の名称を記入すること。

2. 取組の名称・区分および配分額

- ・取組名称、取組の区分（単独型／連携型；新規申請／継続申請）、金額を記入すること。

3. 科目名および科目の区分について

- ・本経費の対象となる授業科目名を記入し、科目の区分（組織、受講対象年次、教育種別、講義形態、必修選択、開講年度学期）を選択ないし記入すること。

4. 取組の実施概要・特色

- ・取組の実施概要及び特色を記載例にならい、具体的に記入すること。

5. 事業の効果

- ・取組による効果を記載例にならい、具体的に記入すること。

6. 実施担当者

- ・代表者には氏名の欄に※印を付すとともに、事業の担当分担を記入すること。

7. 経費の概算

- ・経費の予算について、事項、各事項の予定額、積算内訳等を記入すること。

8. スケジュール

- ・取組のスケジュールを記載例にならい、具体的に記入すること。

9. その他

- ・様式枠にとらわれず、必要に応じて継紙に記入しても構わないが、全体で2枚以内にまとめること。

九州・大学発ベンチャー振興シーズ育成資金審査委員会設置要綱（案）

（設置目的）

第 1 条 琉球大学地域連携推進機構（以下「機構」という。）は、九州・大学発ベンチャー振興シーズ育成資金（以下「ギャップ資金」という。）の学内公募について、専門的・公正かつ客観的な観点から、機構が支援するプロジェクトについて審議するために、九州・大学発ベンチャー振興シーズ育成資金審査委員会を設置する。

（役割）

第 2 条 委員会の役割は、次に掲げるものとする。

- （1）ギャップ資金に係る申請書の審議に関すること。
- （2）ギャップ資金に係る申請書の評価に関すること。
- （3）その他、ギャップ資金の円滑な支援を図るための事項に関すること。

（構成）

第 3 条 委員会の委員は、次のとおりとする。

- （1）機構産学官連携部門（以下「部門」という。）の長
- （2）部門研究開発支援系の教員
- （3）部門知的財産系の教員
- （4）部門起業支援系の教員
- （5）機構地域連携企画室の教員
- （6）株式会社沖縄銀行から推薦された者
- （7）株式会社琉球銀行から推薦された者
- （8）株式会社沖縄 TLO から推薦された者

2 委員の任期は事業年度末日までとする。

（委員長）

第 4 条 委員会には、委員長 1 名を置く。

- 2 委員長は委員会の委員の互選とする。
- 3 委員長は委員会を総括し、代表する。

（委員会）

第 5 条 委員会は、地域連携推進機構長が招集する。

- 2 委員会の議長は、委員長が務める。
- 3 委員会は、委員の半数が出席しなければ開くことができない。
- 4 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

（意見の聴取）

第 6 条 委員会は、必要と認めた場合、専門事項に関し学識経験者、有識者に出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

（庶務）

第 7 条 委員会の庶務は、総合企画戦略部地域連携推進課において処理する。

令和元年 5 月 10 日
産学官連携部門会議 了承

(守秘義務)

第 8 条 委員は、委員会において知り得た一切の情報について、他人に漏洩せず、または他人を使って漏洩させず、特許等の知的財産を取得せず、又は所属先で使用しない。

(雑則)

第 9 条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営等に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附則

この要綱は、令和元年 月 日から施行する。

地域連携推進機構運営会議 委員名簿

(平成31年4月1日時点)

	所属・職名	氏名	区分	備考
1	機構長 (理事・副学長(地域・社会連携担当))	うしくぼ きよし 牛窪 潔	1号委員	議長
2	副機構長 兼 産学官連携部門長 (副学長・副理事(産学官連携担当))	たけむら あきひろ 竹村 明洋	2号委員	議長代行
3	地域連携企画室長 (生涯学習推進部門 教授)	せ と ひろふみ 背戸 博史	3号委員	
4	生涯学習推進部門長 (生涯学習推進部門 教授)	せ と ひろふみ 背戸 博史	4号委員	
5	産学官連携部門 准教授	たまき おさむ 玉城 理	5号委員	専任教員
6	生涯学習推進部門 准教授	しばた さとし 柴田 聡史	5号委員	専任教員
7	地域連携企画室 特命准教授	こじま はじめ 小島 肇	6号委員	特任教員
8	地域連携企画室 特命准教授	しまぶくろ あきみち 島袋 亮道	6号委員	特任教員
9	地域連携企画室 特命准教授	はたなか ひろし 畑中 寛	6号委員	特任教員
10	産学官連携部門 教授 (工学部 教授)	せ な は いずる 瀬名波 出	7号委員	併任教員 (任期:2019年4月1日～)
11	産学官連携部門 教授 (理学部 教授)	まえひら たかひろ 眞榮平 孝裕	7号委員	併任教員 (任期:2019年4月1日～)
12	総合企画戦略部長	につた きなえ 新田 早苗	9号委員	
13	総合企画戦略部 地域連携推進課長	きんじょう とおる 金城 徹	10号委員	
14				
15				